

令和6年度

社会福祉法人美生会

事業報告書

社会福祉法人美生会

目 次

美生会 事業報告	7
ヴィラージュ川崎 事業報告	9
総括	10
1 特別養護老人ホームヴィラージュ川崎	11
(1) 稼働率	11
(2) 主な取組み	11
(3) 今後の課題	11
(4) 医療的状況	12
(5) 施設入居者の状況	13
(6) ボランティアの受入れ状況	14
(7) 施設行事（特養・ショート）	14
2 ヴィラージュ川崎短期入所生活介護事業所	15
(1) 稼働率	15
(2) 主な取組み	15
(3) 今後の課題	15
3 ヴィラージュ川崎デイサービスセンター	16
(1) 稼働率	16
(2) 主な取組み	16
(3) 今後の課題	17
(4) 利用者の状況	17
(5) 活動内容	17
4 栄養科	18
(1) 主な取組み	18
(2) 行事食の提供	18
(3) 今後の課題	18

5	事務	19
	(1) 主な取組み	19
	(2) 今後の課題	19
	(3) 職員採用・退職者	19
	(4) 介護職員資格保有者	19
6	施設全体の取組み	20
	(1) 委員会活動	20
	(2) 内部研修	21
	(3) 外部研修	21
	(4) 各種会議	22
	ヴィラージュ虹ヶ丘 事業報告	23
	総括	24
1	地域密着型特別養護老人ホームヴィラージュ虹ヶ丘	25
	(1) 稼働率	25
	(2) 主な取組み	25
	(3) 今後の課題	26
	(4) 医療的状況	26
	(5) 施設入居者の状況	26
	(6) ボランティアの受入れ状況	26
	(7) 施設行事	28
2	ヴィラージュ虹ヶ丘短期入所生活介護事業所	29
	(1) 稼働率	29
	(2) 主な取組み	29
	(3) 今後の課題	29
3	ヴィラージュ虹ヶ丘看護小規模多機能型居宅介護	30
	(1) 稼働率	30
	(2) 主な取組み	30
	(3) 今後の課題	30

(4) 利用状況	31
4 ヴィラージュ虹ヶ丘訪問看護ステーション	32
(1) 達成率	32
(2) 主な取組み	32
(3) 今後の課題	32
5 ヴィラージュ虹ヶ丘居宅介護支援事業所	34
(1) 実施状況	34
(2) 利用状況	34
(3) 業務断続計画 (BCP) 策定	34
6 栄養科	35
(1) 主な取組み	35
(2) 行事食の提供	35
(3) 今後の課題	35
7 事務	36
(1) 主な取組み	36
(2) 今後の課題	36
(3) 職員状況	36
8 施設全体の取組み	38
(1) 委員会活動	38
(2) 内部・外部研修	39
(3) 各種会議	39
よろこび久末 事業報告	41
総括	42
1 看護小規模多機能型居宅介護	43
(1) 稼働率	43
(2) 職員状況	44
(3) サテライト事業所の安定的な運営と人材確保	45
(4) BCP に関して	45
2 小地域における生活支援体制整備事業	45

3	訪問看護ステーション	46
	(1) 実施状況	46
	(2) 利用状況	46
	(3) 職員状況	46
4	居宅介護支援事業所	47
	(1) 実施状況	47
5	事業所共通部門	47
	ヴィラージュ中原 事業報告	48
	総括	49
1	特別養護老人ホームヴィラージュ中原	50
	(1) 稼働率	50
	(2) 主な取組み	50
	(3) 今後の課題	50
	(4) 医療的状況	51
	(5) 施設入居者の状況	51
	(6) ボランティアの受入れ状況	52
	(7) 施設行事（特養・ショート）	52
2	ヴィラージュ中原短期入所生活介護事業所	53
	(1) 行動指針	53
	(2) 主な取組み	53
	(3) 今後の課題	53
3	看護小規模多機能型居宅介護	54
	(1) 利用状況	54
	(2) 職員状況	54
	(3) 事故等の報告	54
	(4) 行事	55
	(5) 小地域における生活支援体制整備事業	55
4	栄養科	56

(1) 主な取組み	56
(2) 行事食の提供	56
(3) 今後の課題	56
5 事務	57
(1) 主な取組み	57
(2) 今後の課題	57
(3) 職員採用・退職者	57
(4) 介護職員資格保有者	57
6 施設全体の取組み	58
(1) 委員会活動	58
(2) 内部研修	58
(3) 外部研修	59
(4) 各種会議	59

美生会 事業報告

令和6年度社会福祉法人美生会（以下「美生会」という。）は、13年目を迎えた「ヴィラージュ川崎」、11年目の「ヴィラージュ虹ヶ丘」、9年目となる「よろこび久末」に加え、令和5年10月開設した「ヴィラージュ中原」の4拠点で事業運営を行いました。

例年、事業計画に基づき、特別養護老人ホーム（以下「特養」という。）のヴィラージュ川崎、ヴィラージュ虹ヶ丘及びヴィラージュ中原を中心に施設サービスを、よろこび久末は看護小規模多機能型居宅介護事業（以下「看多機」という。）の在宅サービスを中心に提供してまいりました。また、4拠点相互間での連携を図って、特養の入所者やショートステイの利用者の調整、更には人員不足時での職員の応援体制、適時・適切なサービスの提供体制の確立、職員の機能的な配置など、施設サービスを中心に看多機や訪問看護の在宅サービスの利用者増により各拠点での安定した施設運営につなげることができました。

令和6年度に介護報酬改定がありましたので、新たな加算や要件変更への対応を行いました。改定の基本視点の一つとして「良質な介護サービスの効率的な提供に向けた働きやすい職場づくり」を重点的に実施いたしました。

更に、各委員会、面談記録などの議事録作成で1時間以上をかけて作成するケースもありましたが、議事録自動作成ソフト「ノーマン」の導入で、数分程度で議事録の作成が可能となり、各拠点での時間短縮や負担軽減に役立っています。また、ヴィラージュ川崎では、介護ロボット・ICT補助金の活用（10/10補助）により、「眠りSCAN」と「眠りSCAN eye」等を導入いたしました。これは、利用者のマットレスの下に、シート状のセンサーを敷き、利用者の呼吸数、心拍数、覚醒状態、離床動作などをリアルタイムにモニターで確認しています。また、利用者の映像を遠隔で確認できるシステムも導入し、利用者に異常があれば即座に対応することができ、介護の質の向上と見守りの効率化を図ることで、職員の負担の軽減に役立っています。更に、ヴィラージュ中原では、補助金を活用して多床室（4床部屋）を間仕切りし、専用ドアを設けたことで半個室化となり、プライバシー保護に配慮した多床室に改修することができました。これによって、利用者のプライバシーに配慮したケアを提供することができて、職員の精神的な負担も軽減されました。多床室を男女混合にできることで入居調整がスムーズになり、結果として稼働率の向上にも影響しました。更に、居住費の基準費用額が改定（60円引上）されましたので、特養の居住費も増額（4.7～28.6%）になり、食費を含めて約1,500万円の増収が見込めるようになりました。

人材不足や職員定着の取り組みについては、外国人の採用、カイテキやスマビーなど単発のワークシェアサービスの導入による労働力の確保、繁忙時間帯の負担緩和、実務者研修や介護認知症実践者研修の受講など資格取得やスキルアップにもつながりました。

外国人の採用については、技能実習生、特定技能生、介護福祉士など合計8名を採用し、現在21名が勤務しています。今後、増員を図るためには、夜勤や緊急時の医療機関等との連絡体制などの整備が必要となります。

また、職員定着の取り組みの一つとして、川崎市介護職員家賃支援事業補助金の活用を始めました。平成4年4月以降に入職した職員が対象で、条件が整えば、賃貸住宅について家賃の半分が最大3年間補助されますが、転職・退職した場合には、受給ができなくなります。

事業収入について言えば、特養ではヴィラージュ中原で最大12名（定員の約23%）が入院になるなど、特養入所者の入院が増えました。また、ヴィラージュ川崎では、待機者の確保が十分にできなかったため、稼働率に影響を及ぼしました。

更に、看多機の相談件数にバラツキがあり登録者数が伸びなかったことで、目標件数を大きく下回ることになりました。

今後、特養は入院中の方のご家族への働き掛けの機会を増すよう取り組んでまいります。また、看多機は登録者数を増やすために、グループ内において営業チームを立ち上げ、定期的（月2回）に相談案件の進捗や状

況の確認を行ってまいります。

結果として、十分な収益を得ることはできませんでしたが、新富士病院グループ（東京本部）の法人からの支援により、施設運営に支障をきたすことはありませんでした。社会福祉法人は、社会福祉事業を担うことを目的とする非営利法人ですが、事業を継続していくためには、利用者の様々な福祉ニーズに応えていくとともに、効率的・効果的な経営を実践していく必要があります。今後とも、既存施設の稼働率向上や、特養での登録者数の増が不可欠であると考えております。

社会福祉法人の役割として、健全で発展的な施設運営を推進していく必要があることから令和6年度も地域における公益的な活動を通じた地域包括ケアシステムの推進への参画なども重点課題としております。

よろこび久末では定期的に「よろこび市」と銘打ち、古着回収とその無料提供、地元野菜・地元で有名なパンの提供販売を町内や民生委員児童委員など地域の方々と協働体制で開催し、地域の方々の参加・交流を促しました。また、ヴィラージュ中原では、町内会や民生委員児童委員の支援のもと、駄菓子屋事業により子どもたちの居場所づくりとともに、入所者と近隣小学校・保育園等との多世代間交流を行いました。これらにより閉じこもりの防止や介護予防に繋がる取り組みができていると考えています。

今後も、更なる職員の資質の向上を目指し、これまで以上に4拠点間やグループ内の医療機関等との連携を密にし、福祉サービスや適正な事業運営に邁進しながら、高齢者が可能な限り、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、支援を行ってまいります。



ヴィラージュ川崎 事業報告

総括

- 特別養護老人ホーム
- 短期入所生活介護事業所
- デイサービスセンター
- 栄養科
- 事務
- 施設全体の取組み

総括

令和6年度特別養護老人ホーム（以下「特養」という。）は退居者が多くあり、待機も少なかったため、思うような稼働とはなりません。生活相談員1名のため特養と短期入所生活介護の両方を担う形となっており、実調もなかなか進捗できませんでした。10月になり新たに生活相談員を増員し、2名体制で対応しております。現在は待機者15名を目標に入居業務を行っております。以前と比べ入居促進に対する意識が上がったこともあり、早期満床を目指しその後もペースを落とさず稼働率を高いまま維持してまいります。

離職に関して、介護職の退職者が多く8名が退職もしくは異動となっております。早急な人材確保が急務となっております。

新型コロナウイルスの感染はありましたが、広がることはなく経過しています。引き続きウイルスを持ち込まないよう注意し感染症対策を行ってまいります。

令和6年度大規模修繕の補助金を利用し全床眠りSCANと専用カメラを導入しました。ベッド上の動きを感知し転倒転落事故防止に役立っています。また、録画映像も確認できるため事故対策にも有効となっています。併せて、トランシーバー型無線機も導入したことで、これまでより情報共有の早さが格段に上がりました。職場環境の向上の観点からみて非常に役立っています。

短期入所生活介護（以下「ショートステイ」という。）は10月より生活相談員が補充され、現在はショートステイを担当しつつ特養の入居業務も習得中となっております。将来的には2名の生活相談員が特養とショートステイのどちらの業務も行えるようにしてまいります。

異動当初は慣れないこともありショートステイの稼働が低迷しておりましたが、現在では大幅に稼働率を上げております。入院や空床のベッドも積極的に利用し稼働に繋げています。また、新規利用者を増やすため居宅支援事業所の営業を増やしています。

デイサービスに関しては令和6年度当初は登録者が徐々に増え始め、稼働もやや上向きになってきました。コンサルタントを交えた毎月の会議や、営業活動を行ったことで登録者も増えました。

年末よりインフルエンザ感染症と、冬場でキャンセルが多くなり稼働が下がっています。引き続き営業活動を行い、利用数を増やしてまいります。また、介護度の高めのご利用者も積極的に受け入れ、平均介護度を上げ、収益に繋げてまいります。

栄養科のニュークックチルシステムが未だ稼働していない状態で、現在業者の選定を行っております。稼働後は効率の良い調理システムになるため労働環境の改善にも繋がり、コスト削減にもなります。

ご入居者の楽しみの一環としてイベント食にも力を入れてまいります。

令和6年度を振り返ると、一番に稼働率の低迷が悔やまれます。早め早めの行動を行いそれが通常になることが7年度の行動目標となります。また、各機器の修繕などにも費用が掛かるため高稼働を維持できるよう行動してまいります。

もう一つの課題として、介護職のご入居者へ対する接遇面の改善が急務と感じています。施設理念にも挙げておりますヴィラージュ川崎で良かったと思っただけの介護にはまだまだ不十分であり、この問題を改善できることがご入居者ならびにご家族の満足に繋がるため時間が掛かりますが実践してまいります。

1 特別養護老人ホームヴィラージュ川崎

(1) 稼働率

特別養護老人ホーム（以下「特養」という。）全体の稼働率は92.4%で、前年度比で1.4%の減少になりました。内訳としましては、従来型（多床室）が93.2%、ユニット型が91.1%となっています。

目標稼働率は、従来型・ユニット型ともに97.0%を設定していましたが、結果的に、従来型3.8%、ユニット型5.9%下回る結果となりました。特養全体では、目標値を約4.6%下回りました。

目標稼働率に届かなかった要因としては、長期化した入院や連続した退居の影響が大きかったことがあげられ、入院・外泊・空床の総延日数が2,404日、月平均約200日と、前年と比較し稼働率に繋がらない日数が424日の増となりました。

一方で、ご家族や協力病院との連絡調整を定期的に行い、長期入院による退居の防止と、積極的な看取りによる入院の空床日数の縮小化を図りました。また、入居案内を効率化する為、入居書類の見直しを図り早期入居に努めました。

(定員 52 名)

従来型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平均入居者数	48.5	50.8	50.2	49.7	49.1	48.9	47.3	45.8	47.3	47.8	48.6	47.6	48.5
稼働率(%)	93.3	97.5	96.5	95.3	94.2	94.0	90.6	88.0	90.9	91.9	93.8	91.6	93.1

(定員 34 名)

ユニット型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平均入居者数	31.8	29.4	28.3	28.4	32.6	33.5	32.9	31.7	31.9	30.8	30.4	30.6	31.0
稼働率(%)	93.4	85.8	83.2	82.8	95.7	98.6	96.6	93.3	93.8	90.4	89.3	88.5	90.1

(2) 主な取組み

- ア 特定行為従事者（喀痰吸引）の夜勤配置（夜間帯1名以上の配置）
- イ 入院者の空床ベッドの活用（空床利用のショートステイ）
- ウ 日勤リーダーの配置
- エ 新型コロナウイルス感染症に対する、日常的な環境清掃等による感染予防対策
- オ ご利用者の健康管理（体温測定・消毒・3密回避・外出時受診時1日4回検温）
- カ 個別ケアに応えるための業務改善・仕事の効率化
- キ ご利用者の生活実態に合わせた職員勤務体制の見直し
- ク カイテクの活用

(3) 今後の課題

- ア 職員不足時のための状況に応じた協力体制づくり、及び業務の見直し、職場環境の整備
- イ 事故報告書からの分析と評価を行い、事故を未然に防ぐ取組み
- ウ 服薬マニュアルの徹底と服薬事故の予防
- エ 稼働率を念頭においた入居者への健康管理と長期入院を防ぐ取組み
- オ 新型コロナウイルス感染症へのマニュアルによる対応及び事業継続計画（BCP）の全職員への周知

- カ 所属長による職員行動の把握と評価
- キ 職員の体調不良時の迅速な状況把握と感染予防対策の継続
- ク 職員の接遇やケア意識の向上
- ケ 多職種、ご家族と連携し「その人らしく」を大切にされた看取りケアの実施

(4) 医療的状況

ア 入院等の状況

入居者の慢性疾患や認知症の進行による状態の低下や重度化が進んでいます。昨年度と比べ入院延べ日数が従来型で減少し、ユニット型は増加しています。高齢者は抵抗力や免疫力が低下しており、回復に時間がかかることで、入院が長期化していると考えられます。また、ユニットでは認知症の薬剤調整で入院したご入居者もいたので入院が長期化し入院日数が増加しました。

受診総件数は、昨年とほぼ変化ありません。定期的に持病で受診する方も多くみられます。4月～8月、11月12月は特に多く、施設内でコロナ感染症発生したこと、コロナではなくても咳嗽を伴う感染症にかかると、周りに感染してしまうことが多くみられました。受診の多くは、熱発と皮膚状態の悪化、転倒転落による外傷でした。往診時にできるだけ対応できるように、往診医との連携に今後も努めています。

看取り実施の総数は昨年と変化ありませんが、看取りの同意書を頂いている方は昨年より増えています。今後も早期対応を行うとともに、協力病院との連携・協力体制を強化し、看取りケアの推進にも取り組んでいきます。

従来型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院・外泊延べ日数	60	39	27	52	49	20	31	64	49	29	28	35	483

ユニット型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院・外泊延べ日数	11	100	93	104	26	0	10	59	15	65	77	101	661

イ 受診状況

全体	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
受診数	28	25	29	40	21	18	42	15	18	27	15	33	311

※ 協力医療機関以外の他医療機関の受診は、整形外科、眼科、皮膚科、耳鼻科、歯科、脳神経外科等

※ 主な入院の要因は、発熱、肺炎、尿路感染、認知症の薬剤調整等

ウ 看取り状況

全体	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
看取り数	1	1	1	1	1	2	2	0	2	1	2	0	14

(5) 施設入居者の状況

ア 区別入居者数

	従来型	ユニット型	計
川崎区	0	0	0
幸区	1	0	1
中原区	1	0	1
宮前区	5	2	7
高津区	3	2	5
多摩区	36	24	60
麻生区	1	2	3
川崎市以外の市区町村	3	4	7
計	50	34	84

イ 入退居の状況

従来型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入 居	3	0	0	1	1	1	1	1	3	2	1	3	17
退 居	0	0	1	1	1	3	3	1	2	3	1	1	17

ユニット型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入 居	1	1	2	2	1	0	1	1	0	0	0	2	11
退 居	1	1	3	0	0	1	1	0	2	2	2	2	15

ウ 要介護度別入居者数

従来型

区 分	要介護度 1	要介護度 2	要介護度 3	要介護度 4	要介護度 5	計	平均介護度
男	0	0	1	2	4	7	4.42
女	0	0	6	23	14	43	4.18
計	0	0	7	25	18	50	4.22

ユニット型

区 分	要介護度 1	要介護度 2	要介護度 3	要介護度 4	要介護度 5	計	平均介護度
男	0	0	0	5	3	8	4.36
女	0	0	3	16	7	26	4.15
計	0	0	3	21	10	34	4.20

※ ヴィラージュ川崎全体の平均要介護度は、4.22

エ 年齢別分布

ユニット型

年 齢	男	女
65 未満	0	0
65～69	1	0
70～74	0	0
75～79	1	1
80～84	0	4
85～89	4	5
90～	2	16
計	8	26
平均年齢	91.1	85.5

従来型

年 齢	男	女
65 未満	1	0
65～69	0	0
70～74	0	3
75～79	0	1
80～84	4	5
85～89	0	13
90～	2	21
計	7	43
平均年齢	81.3	88.7

(6) ボランティアの受入れ状況

	ボランティア内容
4 月	たますだれ・かっぱれ
5 月	メガネスーパー出張サービス・バイオリン演奏会
6 月	ハーモニカ
7 月	ピアノ演奏会・傾聴ボランティア
8 月	笑いヨガ
9 月	傾聴ボランティア・介護美容
10 月	傾聴ボランティア
11 月	傾聴ボランティア
12 月	傾聴ボランティア・介助ボランティア
1 月	傾聴ボランティア
2 月	傾聴ボランティア・介護美容
3 月	傾聴ボランティア・笑いヨガ

7) 施設行事 (特養・ショート)

	施 設 行 事		施 設 行 事
4 月	お花見	10 月	外出レク
5 月	チョコフォンデュ・お花の会	11 月	秋祭り・外出レク・食べ物レク・お花の会
6 月	緑化センター外出・食べ物レク	12 月	クリスマス会・洋服移動販売・外出レク
7 月	運動会・お花の会	1 月	食べ物レク
8 月	食べ物レク	2 月	外食レク・お買い物レク・お花の会
9 月	敬老会・料理レク・外出レク・お花の会	3 月	お花見・外食レク

2 ヴィラージュ川崎短期入所生活介護事業所

(1) 稼働率

稼働率は112.0%で、前年度比で2.1%の減少となっています。

定員4名に対して、目標稼働率98%を設定しておりましたが、前年度より継続した空床利用を積極的に利用することにより14.0%上回る結果となりました。

また、地域のご利用者・ご家族やケアマネジャーの要望に応じた緊急時の受け入れ対応や、新規の受け入れ対応の結果、男性の延べ利用日数は7日増加しました。

今後も、地域の皆様が住み慣れた場所で安心して在宅生活を継続できるよう支援してまいります。

ア 延べ利用人数と稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	8	16	8	11	17	14	10	10	17	14	6	7	138
女性	68	129	139	147	137	122	125	109	113	107	125	149	1470
計	76	145	147	158	154	136	135	119	130	121	131	183	1635
稼働率	67.7	116.9	122.5	127.4	124.2	109.7	108.9	99.2	104.8	97.6	117.0	147.6	112.0

イ 介護度別利用延べ人数

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男性	0	0	0	44	94	138
女性	56	321	656	289	153	1475
計	56	321	656	333	247	1613

(2) 主な取組み

ア ご本人、ご家族の要望に沿った受け入れ期間の設定や個別ケアの立案

イ キャンセルがなくても稼働率に影響が出にくいご利用予定づくり

ウ ケアマネジャーとの連携・情報共有の強化

エ 空床利用の積極的な利用

オ 緊急利用への柔軟な対応

(3) 今後の課題

ア 短期入所床システムを利用した緊急時の受け入れ対応強化

イ 感染防止対策の継続

ウ 要支援の方やデイサービスご利用者が来ても退屈しないショートステイ

エ 働きやすい職場環境づくり

オ 満床の場合のグループ施設の紹介強化

3 ヴィラージュ川崎デイサービスセンター

(1) 稼働率

稼働率は94.4%で、1日平均28名のご利用でした。前年比で5.1%のプラス、1日平均1.5名のプラスという結果になりました。

4月からは感染対策に努めながら、利用者獲得に向けた対策として、見学者の積極的な受け入れにより、見学者から利用契約にほぼ繋げることができました。

また、行事の際など、ご利用者の臨時利用の声掛けを行い、1日の利用人数を増やすことや増回を増やすことに努めています。

月末の実績を各事業所に持参しながら営業活動を行いました。

	利用延人数	1日平均	稼働率 (%)	月末登録者数	開始 利用者数計	終了 利用者数計
4月	745	28.0	95.5	117	4	3
5月	768	28.4	94.6	118	3	7
6月	723	28.9	96.4	113	1	2
7月	773	28.6	95.4	118	6	2
8月	765	28.3	94.4	116	1	0
9月	745	29.8	99.3	117	4	0
10月	831	30.8	102.4	124	3	4
11月	767	29.5	98.3	112	2	0
12月	739	28.4	94.7	115	3	9
1月	634	23.5	88.0	119	3	2
2月	648	27.0	90.9	119	3	1
3月	652	25.1	83.5	118	0	0
	733	28.0	94.4	118	4.4	2.5

(2) 主な取組み

ア 職員によってケアの偏りがないよう、全職員で毎夕礼時や、デイミーティング等での情報の共有、アセスメント・モニタリングの実施

イ ご家族及びケアマネジャーに対して、個別支援充実のために速やかな情報の提供。サービス提供後の評価についての連絡や報告

ウ 一般浴に加え、身体状況に応じた、臥床浴や中間浴など入浴体制の多様化

エ 嗜好や、咀嚼・嚥下力に応じた昼食・おやつ提供と、月1回の行事食の実施。個人の好みに合わせた水分補給

オ 運動の機会の確保と、生活機能向上連携加算のための個別計画の作成。機能訓練の実施及び評価

カ ご利用者楽しんで頂くための、季節を感じられる行事や多様なレクリエーションの提供

キ 感染症予防対策の実施と、万が一感染症が発生しても蔓延させず、最小限に抑える体制作り

ク 一人一人がその方らしく過ごせるよう、趣味活動の場の提供

(3) 今後の課題

- ア 安心してくつろげる環境づくりと、笑いの絶えない場所の提供
- イ 多様な個別のニーズを理解し、できる限り対応し尽くすサービスの提供
- ウ チーム全体が主体的に物事を捉え、自由な発想で意見を出し合い、現実的かつ計画的に実施
- エ 稼働率を意識した新規契約者の獲得と欠席者を考慮した定員数の設定
- オ 新型コロナ等の感染症防止対策の徹底。営業を止めることなく継続していく土台作り
- カ 在宅生活の維持・QOLの向上のため、ご利用者がデイサービスを利用する目的を真摯に考え、ご家族・ケアマネジャーとの連携・信頼関係の構築

(4) 利用者の状況（令和6年3月31日現在）

ア 介護度別利用実人数

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
	1	6	22	25	14	18	9	85

イ 介護度別利用延べ回数

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
	114	723	2134	3221	1258	892	448	8790

ウ 年齢別

	男性	女性	計
40歳～59歳	0	0	0
60歳～69歳	2	1	3
70歳～79歳	5	6	11
80歳～89歳	21	40	61
90歳以上	10	33	43

(5) 活動内容

	施設行事		施設行事
4月	プラバン作り 折り紙工作	10月	運動会 おやつ作り(あんみつ)
5月	お菓子作り	11月	ハーバリウム作り
6月	パン食い競争 あじさいゼリー作り	12月	クリスマス会 プラ板工作・ゆず湯・忘年会
7月	七夕短冊作り・冷やしシャンプー 流しそうめん・花火の工作	1月	特設神社にて初詣 鏡開き(ぜんざい) 歌手コンサート
8月	夏祭り 焼き鳥、焼きそば、フランクフルト	2月	節分(豆まき) ハーバリウム作り・マンドリン演奏
9月	敬老会	3月	ひな祭り工作 ひな祭り(ひなあられ、甘酒)

※毎月、お誕生日会を実施

4 栄養科

(1) 主な取り組み

ア 事故防止（異物混入及び誤配膳）

目視、指さし確認等による事故の防止

イ 食材費の予算と比較しながら適正な献立表の作成（食材費管理）を行いました。前例にない食材費の高騰が続き、厳しい結果になりました。

ウ ご入居者への食事提供の工夫では、ミールラウンドを行いご入居者からのご要望を食事に反映したり食事の問題点の改善策をご提案いたしました。

(2) 行事食の提供

ア 旬の食材を取り入れ、四季折々の行事食の提供

	行事食		行事食
4 月	お花見御膳	10 月	秋祭り 秋刀魚の塩焼き
5 月	子供の日	11 月	握り寿司
6 月	豚の角煮丼	12 月	クリスマス
7 月	七夕そうめん	1 月	おせち
8 月	中華料理 手作り春巻き	2 月	節分太巻き
9 月	敬老会・長寿御膳弁当	3 月	ひなまつり

(3) 今後の課題

ア 安心安全な食事の提供

イ 栄養強化加算算定への取り組み

ウ 在庫管理も含む、食材費の可能な限りの抑制

5 事務

(1) 主な取組み

ア 職員への視点で行動

介護資格取得支援、BCPによる災害時訓練を強化し、長期的に働きやすい環境を提供できるよう努めました。

イ ご利用者への視点で行動

感染予防対策をしつつ、日常生活を取り戻していただくために、ご家族で参加できるレクリエーションを強化し、同時に経費を見直しながら取り組みました。

ウ 地域への視点

地域住民の方々の会合やこども会イベント等、地域交流室の利用も少しずつ増えてまいりました。今後、地域の公益的な取り組みも再開予定です。

エ 職員・ご利用者の健康保持促進

定期健康診断・各種予防接種の管理を徹底し、ストレスチェックやカウンセリングの案内、また休職者については、専門家のカウンセリングを設け、復職プログラムを計画、実施いたしました。

ご利用者については、初めて、お花の会、洋服販売を実施し、手先を動かす機会、新しいものに触れる機会を増やし、心身ともに健康を持続できるように計画、実施いたしました。

オ 持続可能な開発目標（SDGs）を取り入れ、施設全体で社会に貢献

エネルギー消費が大きい電機は定期的に見直しを図り、計画節電の実施、また、廃棄物は資源化センターを利用し、少しでも社会に貢献できるよう、努めました。

カ 法人内外の情報の共有と連携支援

4事業所において、補助金申請、保険請求、職員労務関係、経理関係等、各担当者がとりまとめ、重複した作業を省き、業務の効率化に努めました。

(2) 今後の課題

ア 各部署、計画的な経費削減と収益増の取り組み

イ 即戦力に繋がる有資格者の採用強化

ウ 事務員が総合的に、事務全般の業務を遂行することができる体制づくり

(3) 職員採用・退職者（令和7年3月31日現在）

	介護	看護	事務・営繕	相談員	介護支援専門員	栄養	計
入職者数	3	0	3	0	0	2	8
異動入職者数	0	0	1	1	0	0	2
退職者数	6	1	2	1	1	1	12
異動退職者数	0	0	0	0	0	1	1

(4) 介護職員資格保有者（令和7年3月31日現在）

	従来型（SS）	ユニット型	デイサービス	計
介護福祉士	18	18	8	44
実務者研修（ヘルパー1級）	2	3	0	5
初任者研修（ヘルパー2級）	6	1	0	7
認知症介護基礎研修	4	3	1	8
合計	30	25	9	64

6 施設全体の取組み

(1) 委員会活動

委員会名	実施日	内 容
教育委員会	第3 火曜日	・内部研修の担当者の割振り、計画、企画サポート ・実施時のアンケートの集計、実施内容の反省 ・外部研修の計画的な参加の検討（希望者にも配慮） ・人員不足による外部研修への参加機会の見直し ・主任、副主任等による教育ルールの見直し
事故防止委員会	第4 金曜日	・事故、ヒヤリハットの集計及び振り返り ・重大事故の検証 ・事件事例の検討及び分析、対策とその評価 ・事故報告書の作成方法及びカンファレンス方法の見直し ・職員への指導及び教育方法の見直し等
リスクマネジメント委員会	第4 金曜日	・各フロアにおける事故リスク及び身体拘束事例の報告とその検討 ・身体拘束及び行動制限を行わないための取組みの方法 ・スピーチロック事例検討及び職員の教育等 ・スピーチロックの防止と、適切な声の掛け方 ・不適切なケアの防止と、その意識付けの推進
感染予防対策委員会	第3 月曜日	・感染症予防策と発生時の対処方法の周知徹底 ・感染対策時の必要物品の確認 ・市内及び全国の感染症全般の発症状況を調べ、その情報提供 ・感染症が集団発生した場合の対応策の見直し ・夜間発生時の対応、食器の処理方法の確認等 ・食中毒予防に関する情報の共有等 ・感染者が蔓延した場合でも事業を継続できるように計画書の作成、見直し、研修、訓練、委員会の開催を行う
褥瘡委員会	第3 月曜日	・褥瘡の状態調査と、褥瘡改善方法の検討と実施 ・服薬事故の把握と検証、服薬事故防止マニュアルの作成 ・湯流し陰洗の実施 ・基本的な排泄ケアの指導 ・褥瘡改善の理解と指導 ・褥瘡要因の多面的又は個別的な分析及びその検討
アクト委員会	第1 火曜日	・年間の行事の計画、準備、企画及び実施 ・委員外職員との役割の共有化 ・日常のレクリエーション活動の検討
衛生委員会	第4 水曜日	・事業所内メンタルヘルス推進者と共に、心の健康づくり、計画の策定等、職員の安全衛生にかかわる環境の整備・検証及びその改善 ・法令等の遵守及び情報の共有 ・感染予防について確認・職員周知

防災委員会	第4金曜日	・水害、地震、火災等に備えるための定期的な防災訓練の企画・実施 ・毎月1回の防災訓練を企画・実施 ・災害が発生しても事業継続の為に計画書の作成と見直し ・備蓄品の管理
-------	-------	--

(2) 内部研修

実施月	内 容
4 月	事故防止
5 月	身体拘束について
6 月	感染症対策について
7 月	ケア記録の書き方について
8 月	感染症対策について 倫理、法令遵守について
9 月	BCP 業務継続対策について 医療について
10 月	事故防止 口腔ケアについて ターミナルケアについて
11 月	虐待防止 精神的ケアについて
12 月	感染対策について
1 月	感染症対策について プライバシー保護について
2 月	虐待防止
3 月	感染対策 BCP 訓練

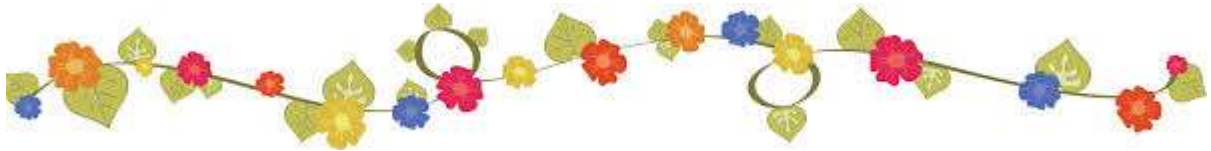
(3) 外部研修

	研修内容	参加者
7 月	介護初任者研修	駒野
8 月	介護実務者研修	齋藤・高橋
	アサーション研修	前田
	チームビルディング研修	島田（千）・松本
	認知症介護実践者研修	戸谷
9 月	介護実務者研修	奥村・可児・倉賀野
	技能実習責任者講習	原嶋
	技能実習指導員講習	繁木
10 月	技能実習生活指導員講習	浅沼
11 月	新卒3年目研修	浅沼・奥村・倉賀野・齋藤
1 月	介護支援専門員更新研修	島田（佳）
3 月	新入職員フォローアップ研修	駒野

(4) 各種会議

部門会議	・第4金曜日 14 時から ・各部門から実績及び予定、課題の報告、施設全体の連絡、課題の検討ほか ・施設長以下各部門長が出席 ・月次報告シートを活用 ・法人及びグループの連絡事項等についても報告
所属長会議	・各フロアでの課題等の確認 ・フロア周知の再確認
各部門別会議	・各部門長の責任で実施

	・部門会議からの連絡事項の報告 ・各部門の課題解決、業務改善のための協議等
フロア会議	・各リーダーの責任で実施 ・施設長会と部門会議の決定を伝達、現場からの課題をまとめて報告 ・各フロアでの課題解決のための協議 ・多床室とユニットの別に実施



ヴィラージュ虹ヶ丘 事業報告

総括

- 地域密着型特別養護老人ホーム
- 短期入所生活介護事業所
- 看護小規模多機能型居宅介護
- 訪問看護ステーション
- 居宅介護支援事業所
- 栄養科
- 事務
- 施設全体の取組み

総括

令和6年度のヴィラージュ虹ヶ丘、各事業所の1年を振り返りますと、特別養護老人ホーム(以下「特養」という。)では、29名の満床状態が長く続いており、最高稼働率は99.4%と高かったですが、年末頃から長期入院、3月中旬からは多数の方が入院となり、平均稼働率は94.5%と令和5年度よりも0.9%のマイナスとなりました。3月中旬からの連日の入院については、感染症ではなかったですが、全員が咳、鼻水、痰、呼吸苦でしたので、時期的に花粉と黄砂が重なったことが原因と考えています。ただし、令和6年度は退去者が4名と令和5年度の11名よりも大変少なく、ご入居者のがんばりもありますが、職員が丁寧なケアをしてきていたのだと考えます。

ショートステイでは、最高稼働率は96.8%でしたが、9月からの人員不足と、急なキャンセル多発とリピートご利用者の入院や、施設入所等で低稼働となり、平均稼働率は88.4%と低迷しました。人員不足時の良い変化としては、カイトクという単発バイトの利用を開始したことです。単発バイトの受入れというのは、初めて来る職員にわずかな業務説明で仕事をしてもらう必要があるため、受入れ準備が必要になります。業務の切り出し、作業工程、利用者情報整理、備品場所整理など、初めて働く職員に分かりやすい情報を作成する必要があるため、今後入ってくる新入職員にとっても有効な土台作りが出来る事に大きなメリットがあると考えます。

看護小規模多機能型居宅介護(以下「看多機」という。)では、登録定員25名に対して、平均20.6名で稼働率77.8%、最高稼働率87.0%と目標達成とはなりませんでした。令和5年度に比べて上昇となりました。看多機は全国でも平均登録者数が22~23名となっており、虹ヶ丘の看多機はひと月の登録者数を22名登録から伸ばすことに苦戦しています。問合せ数が少ないため、宣伝広報活動が今以上に必要だと考えます。4月からは非常勤CMが1名入職し、8月には計画作成担当者となる予定のため、管理者も含め宣伝広報活動行っていきます。

訪問看護では、最高延べ訪問件数511件、平均延べ訪問件数463件となり、令和5年度実績を上回ることができました。しかし、昨年度の終盤から新規契約数が減り、終了者が増えたことと、理学療法士の退職により訪問件数が激減してしまいました。今期は宣伝広報活動にも力を入れていき、新規契約者獲得を毎月6件以上目指していきます。

居宅介護支援事業所(以下、居宅という)では、ケアマネジャー一人当たり35件の目標に対して、実績は平均35.7件と令和5年度をわずかに下回りました。理由は11月頃から、長期担当していたご利用者のご逝去、入所、入院等で終了してしまったことでした。しかし、昨年度最後の3月からは他事業所ケアマネジャー退職による引継ぎなどで件数を大きく伸ばすことが出来ています。今期はその勢いのまま、1人当たり目標件数44件を目指します。

栄養科では、食材費、光熱費、人件費の高騰が続き、大変な苦勞をしました。食事メニューの工夫、省人化による適正人数での運営に取り組みました。厨房職員が少人数でも虹ヶ丘の食事提供のみならず、よろこび久末、ラポール菅生やヒューマンヒルズ初山への行事食等の支援を行い、食事の質の維持・向上に取り組みました。職員食の値上げも行いましたが、今年度もさらに値上げを行うことになりました。ご利用者の食費についてもさらに値上げを検討していきます。

各種委員会は、忙しい中でも定期的に委員会を開催してきました。事故防止・虐待防止等の年間8回の必須研修については外部のオンライン研修を取り入れ、伝達研修用ビデオを視聴して、受講後のアンケートの実施をすることで、研修内容の充実を図りました。

人材確保においては、職員の応募が極端に少なく、直接雇用は満足に進みませんでした。代わりに単発バイトのカイトク、タイミーの導入を行って行きました。また、今まで虹ヶ丘では採用してこなかった特定技能生の採用を特養だけでなく、看多機、今年度はショートステイにも行っていきます。

事務が中心となって、職場環境の整備に取り組みました。電気代をはじめとした物価の急上昇があり、川崎市からの「物価高騰対策支援給付金」「介護職員家賃補助」の申請などを行いました。日々の職員への声掛け、面談、ハラスメント防止にも取り組んできました。多岐にわたって縁の下の方の力持ちとなって働きやすい環境作りに取り組んできました。

今後さらに、建設的な施設運営や在宅サービスの拡大で、地域にとってはなくてはならない信頼される施設となるよう取り組んでまいります。

1 地域密着型特別養護老人ホームヴィラージュ虹ヶ丘

(1) 稼働率

年間稼働率は目標の97%を下回り94.5%でした。

目標未達の主な要因として、年間を通して入院者がいたこと。また、年末年始からのインフルエンザ蔓延、3月から原因不明の咳を伴う発熱疾患からの入院が相次ぎ（最大で8名もの入院者が発生）、入院期間が2か月以上に渡るなどの長期化に至ったこと、さらに看取り利用者のご逝去が断続的に発生したことにより、下半期の稼働率が大幅に低下したためです。

入院対策として、慢性的な疾患を抱えているご利用者が多いため、日々の健康状態の把握、介護と医務の情報の共有化を行い、状態変化の悪化を未然に防ぐためにケアの見直しや、早期の受診に繋げ入居者の入院リスクの回避を図っております。その他、提携病院であるたま日吉台病院との連携を密にし病状を小まめに把握し早期退院に繋げる取り組みもしています。入院退所となった場合も速やかな入居を行うため入居調査・待機者獲得についても積極的に実施し、選定についても特養の平均年齢が89.5歳であり年齢による急変・入院リスクが高いため比較的70代後半、80代前半の入居を進めるなど施設の若返りを図っております。今後も、改善策に取り組み稼働率の確保に努めてまいります。

空床利用についても短期入所生活介護事業所との連携の上、特養職員の積極的な協力体制のもと空床の利用促進を行い、施設全体の稼働率向上に努めてきました。

延べ利用人数と稼働率（定員29名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ人数	858	865	865	884	858	836	848	849	840	819	747	788	10,057
平均入居者数	28.6	27.9	27.7	28.5	27.7	27.9	27.4	28.3	27.1	26.4	26.7	25.4	27.6
稼働率(%)	98.6	90.2	99.4	98.3	95.4	96.0	94.6	97.5	93.4	91.1	91.1	87.6	94.5

参考：令和5年度の稼働率は95.5%でした。

(2) 主な取り組み

- ア 新型コロナ感染防止対策、ワクチン接種の実施、衛生的な職場環境づくり
- イ ユニットケア・個別ケアの意識化と推進
- ウ 認知症ケアの取り組み
- エ 看取りケア、デスカンファレンスの実施
- オ 適切な福祉用具の選定とポジショニングの周知
- カ 内部研修の充実、研修参加率の向上と、ビデオ視聴の導入
- キ 職員の教育方法の見直し及び評価
- ク 入院日数の短縮化に向けてのたま日吉台病院との連携やご家族との連絡調整
- ケ 外国人介護職員（技能実習生含む。）の受入れ
- コ 不適切なケアや事故の防止
- サ 8時間夜勤の導入
- シ 多職種間の情報共有とICT活用（0365teamsを各ユニット端末、介護主任や各リーダーに導入）
- ス グループ・法人事業所間の連携
- セ 新型コロナウイルス感染症5類移行後、対面面会や地域交流の再開、感染対応マニュアルアップデート
- ソ 行事・イベントの充実（新型コロナ5類移行後）

タ 日雇い職員（カイテク）の導入・評価

（３）今後の課題

- ア 新型コロナウイルス感染症の５類移行後の地域交流やボランティア受け入れ体制
- イ BCP（感染症、自然災害、事故やテロ時等における事業継続計画）の更新（大雪、台風、停電事故等の防災の訓練）と周知
- ウ 働きやすい職場環境づくり、適正な人員配置と職員の定着
- エ 人手不足、省人化対策、生産性向上（teams、AI、インカム、リフトや入浴装置の検討）
- オ 特定行為従事者（喀痰吸引）の夜勤配置（１日１名）
- カ 喀痰吸引等（特定業務）資格取得の推進
- キ キャリアラダー制の活用
- ク 不適切なケアや事故の防止（接遇研修、アンガーマネジメント、カウンセリングの活用）
- ケ 科学的介護によるPDCAの実行とケアの質の向上
- コ ご入居者の余暇活動の活性化
- サ 職員のユニット配置のフレキシブル化（各フロアのケア内容の整理・まとめ）
- シ 感染対策マニュアルの更新と有事の対応
- ス ショートステイとの連携による積極的な空床利用と特養職員の協力体制の確立

（４）医療的状況

医務室とユニット間の連携・情報共有を強化し、異常や変化の早期発見・即時対応に努めました。理学療法士によるポジショニングや食事姿勢のシーティングの適正化に努めました。口腔ケアや口腔体操の強化による誤嚥性肺炎の予防も強化しました。しかしながら平均年齢が90歳前後であるため食思不振、体調不良、不顕性による誤嚥性肺炎により必然的な入院も発生しました。また看取りケアの取り組みも推進しました。前年度4名の看取りから今年度は2名の看取りがありました。新型コロナも落ち着いてきた状況も鑑みて、感染対策の上で、ご家族の細めな面会を実施し、本人にも安心でより添えた看取りができたと考えております。

入院等の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院 延べ日数	3	31	5	15	31	30	23	21	59	69	65	108	460

（５）施設入居者の状況

本年度は、4人の入退居で、前年度より半減した状況です。退居理由は、長期入院1件、施設看取り3件となっています。入居前の待機場所は、老健2件病院2件となっております。3月においては特に入院延べ日数が多いため、ショートステイと連携して空床利用を実施しました。双方の協力により問題なく実施することができました。今後も、空床利用を行って、特養収入の補填を行ってまいります。

ア 入退居の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入 居	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	4
退 居	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	4
月末在籍	29	29	29	29	29	28	29	29	29	29	29	28	

イ 要介護度別入居者数 （令和6年度末）

区分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均介護度
男	0	0	2	1	0	3	3.3
女	0	0	3	7	14	24	4.5
計	0	0	5	8	14	27	4.3

ウ 年齢別分布

入居者全体の平均年齢は89.5歳で、90歳以上の人が16人、最高齢は106歳でした。

年 齢	男	女
65～69	0	0
70～74	0	0
75～79	1	2
80～84	0	3
85～89	1	5
90～94	1	9
95～99	1	4
100～104	0	1
計	4	24

エ 介護保険負担限度額認定の段階別利用者数

負担限度額 人数	第1段階	第2段階	第3段階①	第3段階②	第4段階	計
	0	0	4	7	17	28

オ 介護保険負担割合

利用者負担割合 人数	1割	2割	3割	計
	25	3	0	28

(6) ボランティアの受入れ状況

新型コロナウイルス感染症防止のため、令和2年2月24日以降はすべてのボランティアの受入れを中止していました。令和5年5月以降の新型コロナウイルス5類移行後に際し、地域住民で運営している喫茶「集い」は再開しました。しかしながら特養内へのボランティア受け入れは感染症対策上の配慮が多く、7月の家族会でも協議の結果、慎重なご意見が多くボランティア受け入れには至っておりません。

引き続き地域の感染状況を鑑み、ご利用者の娯楽・アクティビティの観点から検討していきます。

中止中のボランティア		
小さな音楽会	傾聴ボランティア	シャンソンの集い
県立麻生養護学校の清掃活動	お手伝いボランティア	書道ボランティア
麻生区地域子育て貢献事業	民謡ボランティア「民謡の会」	

(7) 施設行事

上期は、引き続き新型コロナ感染防止のため、施設全体での行事は取りやめ、特養各ユニット、短期入所ユニット、看護小規模多機能型ユニットが、それぞれでテーマを決め行事を行いました。誕生会やおやつ作りを楽しみました。5月以降の新型コロナ5類移行後は徐々に感染状況が落ち着き、ユニット単位で隣接の虹ヶ丘公園への外出、ハロウィンでは虹ヶ丘こども文化センターや麻生区の企画で、距離を取っての子どもたちとの交流を行いました。

また、感染対策の両立と地域密着の施設としての日常を取り戻すための模索を行っていました。

2 ヴィラージュ虹ヶ丘短期入所生活介護事業所

(1) 稼働率

令和6年度は、急なキャンセルなどに対応することが出来ず、平均稼働率は 88.4%と前年度から大幅にダウンしてしまい、目標の93%には到達することが出来ませんでした。

人員不足もありましたが、営業などに力を入れることが出来ず、新規獲得も少なかったように思います。

来年度は改めて営業活動にも力を入れ、新規利用者の獲得を行っていきます。また、安定したケアを提供出来るように外部の研修などにも参加をし、ケアの質を向上させて参ります。

延べ利用人数と稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護者	296	322	293	324	319	275	272	276	297	270	273	299	3516
要支援者	3	0	3	6	2	1	0	7	4	3	5	3	37
計	299	322	296	330	321	276	272	283	301	273	278	302	3553
稼働率 (%)	90.6	93.8	89.4	96.8	94.1	83.3	80.1	85.6	88.0	80.1	90.3	88.6	88.3

(2) 主な取組み

ア 眠りスキャンにより、ご利用者の睡眠の様子等を確認し、ケアの質の向上に努めました。

イ 担当制にして、おやつ作りレクを毎月開催しました。

ウ 室内でも、季節を感じ楽しんでいただけるよう、毎月手作りで壁面装飾を行いました。

エ 短期入所生活介護だけのパンフレットを作成し、サービスを分かりやすくしました。

オ 毎月ホームページの活動内容を更新し、空き状況は随時更新しました。

カ インスタグラムを活用し、日々の様子を配信しました。

(3) 今後の課題

ア 人材の確保及び育成

イ ケアの質の向上

ウ 他部署・グループ内との連携の強化

エ 感染症対策の継続

オ 新規居宅支援事業所へのアプローチ

3 ヴィラージュ虹ヶ丘看護小規模多機能型居宅介護

(1) 稼働率

令和6年度の平均稼働率は、登録定員25名に対して、平均20.6名で稼働率77.8%、平均介護度3.0でした。昨年度に比べ登録人数、稼働率ともに伸びております。しかし、平均介護度は下がっています。引き続き、ご利用者の過度な利用頻度にならないよう調整し、登録人数を伸ばしていく取り組みを続けています。その結果、新規登録の受け入れが可能な体制に整えることができ、平均登録数、稼働率の上昇につながったと思います。

平均介護度が下がったことに伴い特別管理加算の算定人数が全体の20パーセント以上を満たせず、体制強化加算の要件から外れています。次年度は医療依存度の高い利用者獲得により、体制強化加算の算定要件を満たします。登録人数の増加によって在宅で過ごされる利用者が増え、訪問介護、訪問看護の件数が共に増加しております。

終末期ケアでは、家族とのかかわりを密にしたことで、看取りを4件行うことができました。アマネ・看護師・介護職が連携したことで、充実した看取りケアができたものと考えております。

できるだけ多くの方にサービスを使っていただけるよう、今一度、一人ひとりの利用者のサービスをどう展開をしていけばよいか検討し、今後も、地域で暮らす高齢者の方々に満足していただけるよう、利用者のニーズにあわせて必要なサービスをバランスよく提供できる事業所を目指していきたいと考えております。

(2) 主な取り組み

ア 医療機関との連携強化、新規受け入れに対して早急な訪問調査への対応

イ ご利用者が楽しめる行事への取り組み

ウ ご利用者の個々のニーズに合わせたサービス調整

エ 看護・介護・ケアマネの連携強化

オ 看多機又はご自宅での看取りケアの実施

カ 喀痰吸引等の研修の受講

(コロナ禍のため実践研修修了の遅れがあった)

キ 終末期看取り利用者の受入れ(短期利用)

ク 新型コロナウイルス感染拡大防止対策

- ・手洗い・うがい・アルコール消毒の実施 マスク着用続行
- ・職員勤務前の検温
- ・職員行動指針の周知
- ・新型コロナ感染又は疑われた場合のシミュレーション作り
- ・ガウンテクニック着脱の実践研修
- ・フェイスガードの装着
- ・感染防止対策の備品の点検
- ・陽性疑いの利用者の居室整備
- ・コロナ感染対応策の構築
- ・イエローゾーンのビニールカーテンの設置
- ・災害時のマニュアル作成

コ 生活支援コーディネーターの受託(令和5年10月より)

(3) 今後の課題

ア 継続的な医療処置が必要な利用者や終末期ケアの必要な利用者の獲得(稼働率向上)

イ 積極的な退院支援サービスのアピール(稼働率向上)

ウ 看取りケアにしっかりと取り組める人材の育成強化

- エ 喀痰吸引資格の取得推進
- オ 喀痰吸引が必要な利用者の受入れ拡大
- カ 介護者・看護師・ケアマネ間の連携体制作り、業務の改善、働きやすい職場環境作り
- キ 看多機サービスの充実（行事、室内レクリエーション、外出レクリエーション、行事食等の充実）による
ご利用者満足度の向上
- ク ご利用者家族との情報交換・連携の強化
- ケ 職員・ご利用者の新型コロナワクチン接種の実施と、感染予防対策の継続
- コ 感染対策マニュアルの作成・更新
- サ 安定した体制のための人材確保
- シ BCP 作成 ・更新・訓練
- ス 生活支援コーディネーターによる地域へのアウトリーチ

(4) 利用状況（令和7年3月31日現在）

ア 介護度別利用実績

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男性	3	2	1	2	2	10
女性	3	4	1	3	2	13
計	6	6	2	5	4	23

イ 加算状況

加算項目	件数	加算項目	件数	加算項目	件数
認知症加算Ⅲ	7	看護体制強化加算Ⅱ	0	総合マネジメント加算	23
認知症加算Ⅳ	0	褥瘡マネジメント加算Ⅰ	2	栄養アセスメント加算	20
緊急時訪問看護加算	16	褥瘡マネジメント加算Ⅱ	21	サービス提供加算Ⅰ	23
特別管理加算Ⅰ	0	排せつ支援加算Ⅰ	20	医療保険	4
特別管理加算Ⅱ	4	科学的介護推進体制加算	23		

ウ 令和6年度利用状況

	登録人数	通い	宿泊	訪問介護	訪問看護	平均介護度0	稼働率
4月	21	331	162	41	26	3.1	76.2
5月	19	318	182	47	20	3.1	73.6
6月	20	234	99	32	22	2.8	68.4
7月	18	244	85	42	52	3.1	66.0
8月	22	324	132	99	34	2.9	82.3
9月	20	291	125	61	39	3.0	77.4
10月	20	329	142	58	35	2.9	77.2
11月	21	353	164	62	32	2.9	80.9
12月	21	352	150	62	28	3.2	83.0
1月	19	327	148	44	25	3.2	77.9
2月	22	362	190	42	26	3.2	83.1
3月	23	293	151	41	47	3.0	87.0
平均	20.5	313.2	144.2	52.6	32.2	3.0	77.8

4 ヴィラージュ虹ヶ丘訪問看護ステーション

(1) 達成率

令和6年度末までに利用者登録数105名、延べ訪問件数520件/月を目標としてきましたが、年間を通しての平均延べ訪問件数は463件/月、達成率の平均は89%でした。

延べ利用人数と達成率（目標訪問件数520件/月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
新規人数	6	3	4	6	4	6	5	3	4	0	1	5	3.9
終了人数	6	5	2	2	4	5	8	4	8	2	8	6	5
登録人数	107	104	106	110	110	111	108	107	103	109	94	93	105
訪問 延べ件数	451	481	466	511	490	471	490	473	484	460	413	389	458
達成率(%)	86	92	89	98	94	90	94	90	93	88	79	74	89

(2) 主な取組み

ア 利用者獲得のために ケアマネジャーへの声かけを行った。固定された居宅介護支援事業所からの依頼を受けることができていますが、今年度は全体的に相談件数が減り、長期利用者様が施設入所やお看取りとなったため件数減になっています。

イ 今年はラダーを作成し、職員のスキルアップに繋げる取り組みをしました。また、スタッフ個々が研修を受講し、他スタッフへの伝達講習が行えました。

ウ フットケア専門看護師により、利用者様へ質の高いフットケアを行うことができおり、職員への研修も行っています。

(3) 今後の課題

ア 利用者獲得

居宅事業所に空き状況を伝え、コンスタントに相談を受けられるよう努める。パンフレットを病院、居宅事業所に配布し事業所の強みをアピールする。

イ 職員の増員

インスタグラム、ホームページを積極的に活用し、職員獲得に努めます。

ウ 職員が、外部研修・WEB研修

1年に3回受講できるようにします。職員の知識、技術の差が出ないように、ラダーチェックを行い個々のスキルアップに繋がります

オ BCP の作成

他部門と協力して、策定したBCPの維持・更新に努めます。

カ 法人内サービスとの連携の強化

看多機サービスに適合する利用者、ショートステイ利用希望者を紹介し、連携を図ります

5 ヴィラージュ虹ヶ丘居宅介護支援事業所

(1) 実施状況

令和2年12月に開設し、4年4か月になりました。

予定通り、所属介護支援専門員1名が令和7年2月、無事主任介護支援専門員研修を修了いたしました。管理者は令和5年6月より、令和6年度も引き続き川崎市介護支援専門員連絡会研修事業及び多職種連携事業、麻生区介護支援専門員連絡会研修事業に主任介護支援専門員として参加し、同事業所及び地域の介護支援専門員の資質向上、育成に取り組みました。

新規ご利用者の紹介元は、地域包括支援センター、居宅事業所を閉鎖する、または退職するケアマネジャーの後任を据えられない他居宅、令和6年7月に閉鎖した法人内よるこび久末居宅で7割を占めました。

35件の目標に対して、令和6年度平均は昨年度とほぼ変わらず、35.7件(要介護32.9件、要支援5.5件)でした。また、担当件数に対する令和6年度新富士病院グループ内連携平均は49.1%(昨年度は47.3)、法人内連携平均は34.4%(昨年度は29.8)でした。

男女比は昨年度に引き続き4:6、平均介護度も昨年度とほぼ変わらず2.01(昨年度は2.02)、年齢別も昨年度とほぼ変わらず90歳以上が29.9%、次いで85-89歳が24.6%、80-84歳が21.4%、75-79歳が12.8%で、後期高齢者層で全登録者数の88.7%となりました。令和6年度も1年を通して新規登録、利用終了の入れ替わりがめまぐるしかったのですが、その一因は、やはりご利用者の大多数が85歳以上であった影響ではないかと考えられます。

また令和6年6月に川崎市における認定調査員不足が解消でき、原則、区認定調査員が全ての調査を行うこととなりましたが、やはり調査全てを賄うことはできず、併設看護小規模多機能型居宅介護ご利用者、居宅ご利用者、住所地特例者の認定調査を引き続き望月ケアマネジャーが実施いたしました。なお横浜市青葉区は元々認定更新調査であれば、担当ケアマネジャー自身が行ってよいと、コロナ禍以前より認められています。川崎市麻生区から19件、横浜市青葉区から3件、横浜市金沢区、東京都練馬区及び渋谷区、東京都三鷹市、千葉県松戸市、山梨県北杜市、宮城県仙台市より、住所地特例者の認定調査を各々1件ずつ、計29件の認定調査を受託いたしました。昨年度の認定調査受託が62件でしたので、半数に減ったことになります。

(2) 利用状況

昨年同様同事業所内で、ご利用者・ご家族に最善のサービスが提供できるよう、特に施設や病院での看取りを希望するターミナルケースでは、代替えとして併設看護小規模多機能型居宅介護を提案し連携に努め、令和6年度は、年間5件の目標が達成できました。

また、最終的には看取り目的での長期療養型病院入院、救急車搬送でかかりつけ病院入院に至ったターミナルケースも、併設訪問看護ステーションとのセットでの支援だと密な連携ができ、ご利用者・ご家族が看取りをどこでどのように行うか決断する支援を、昨年同様協働してしっかり行えたと考えます。

介護者の急な入院、怪我等による緊急対応、共倒れ予防対応として、併設特養ショートステイ、または看多機短期利用を昨年同様真っ先に検討し、併設特養ショートステイ相談員が空床利用に積極的に取り組んでくれたため、他施設ショートステイを利用したことがほぼありませんでした。また併設特養ショートステイ定期利用に結び付いた件数は、年間3件の目標が達成できました。

加えて管理者が担当している、身体虐待、心理及び経済虐待ケースとして麻生区に各々登録されている3名は、経済虐待ケース2名が麻生区地域みまもり支援センター、地域包括支援センターと協働しなければならない状況に陥り、カンファレンスを重ね対応策を検討いたしました。また所属他ケアマネジャーも、地域包括支援センター、麻生区あんしんセンターと連携しながら、成年後見制度申し立てが必要な独居者等、困難ケース対応をいたしました。

ア 利用者内訳

介護度別月平均		紹介元 (年間)		居住地 (3月現在)		終了理由 (年間)	
要介護5	4(4)	包括	10(5)	麻生区	51(51)	看多機・小多機移行	5(3)
要介護4	15(4)	病院	4(7)	宮前区	19(7)	特養・老健入居	5(5)
要介護3	17(7)	他居宅	9(9)	多摩区	2(1)	有料ホーム	1(1)
要介護2	42(25)	法人内・グループ内他居宅	6(0)	青葉区	1(3)	グループホーム	1(0)

要介護1	32(26)	本人・家族	4(7)	町田市	4(4)	長期療養型 病院	6(4)
要支援2	12(7)	その他 ※ヴィラー ジュ訪看	2(2)	上牧町 (奈良県)	1(1)	ご逝去	8(4)
要支援1	3(4)			金沢区	2(2)	サービス 利用終了	2(5)
						その他 ※他居宅へ移行	2(2)

※ 0 内は前年度数

イ 登録状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録人数	69	67	67	68	64	64	64	66	65	65	66	69
※下段は 要支援	10 (63) (12)	11 (63) (12)	11 (63) (12)	11 (62) (12)	11 (65) (11)	12 (70) (9)	12 (69) (9)	12 (67) (9)	12 (66) (10)	12 (65) (11)	12 (64) (11)	12 (66) (10)
新規登録	4	3	2	2	1	2	2	3	3	4	4	4
※下段は 要支援	0 (1) (0)	1 (2) (1)	1 (3) (0)	0 (2) (0)	0 (5) (0)	1 (6) (0)	0 (2) (0)	0 (1) (0)	0 (2) (1)	0 (2) (1)	1 (1) (0)	0 (5) (1)
終了	1	4	2	1	5	2	2	1	4	4	3	1
※下段は 要支援	0 (2) (0)	0 (1) (1)	1 (3) (1)	0 (2) (1)	0 (1) (1)	0 (0) (2)	0 (3) (0)	0 (2) (0)	0 (2) (0)	0 (4) (0)	1 (3) (0)	0 (3) (1)

※ 0 内は前年度数

ウ 認定調査

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
受託件数	4(4)	5(4)	2(6)	4(3)	3(4)	0(7)	1(10)	0(7)	3(2)	3(3)	4(8)	0(4)

※ 0 内は前年度数

(3) 業務継続計画 (BCP) 策定

業務継続計画 (BCP) 未実施減算猶予期間が令和7年3月末で終了にて、災害、感染症、両分野でのBCP作成を完了しています。

6 栄養科

(1) 主な取り組み

ア ニュークックチルシステムでの円滑な運営

- ・衛生管理に努め、安全・安心な食事提供の継続ができました。
- ・日々のPCDAサイクルの実施により精度が高められました。

イ 省人化による適正人数での運営

- ・ニュークックチルシステムや調理済み食材の導入により社員比率を下げ、少人数で運営することができ、施設収支の健全化に貢献することができました。
- ・少ない人数であっても、職員の負担が大きくならないよう献立内容を精査しました。

ウ グループ施設への行事食の支援体制

- ・ヴィラージュ中原と共同し、ヒューマンヒルズ初山やラポール菅生のイベント食の提供を行うことができました。また、食事の質を上げ、ご利用者の満足度の上昇に繋がることができました。

エ 感染拡大時も食事提供を継続できる体制作り

- ・職員が感染し、出勤停止となった場合でも、給食を提供できる体制作りを行いました。
- ・冷凍弁当、完調品や使い捨て容器をローリングストックすることができました。

(2) 行事食の提供

ア 旬の食材を取り入れ、四季折々の行事食の提供

イ 行事食におけるデイパフォーマンスでの、献立の説明や食材の豆知識の提供

	行事食・おやつづくり		行事食・おやつづくり
4月	お花見弁当(ラポール菅生、ヒューマンヒルズ初山分出張支援)	10月	運動会行事食(ラポール菅生、ヒューマンヒルズ初山分出張支援)
5月	洋食行事食(ラポール菅生、ヒューマンヒルズ初山分出張支援)	11月	握り寿司(ラポール菅生、ヒューマンヒルズ初山分出張支援)
6月	韓国風行事食(ラポール菅生、ヒューマンヒルズ初山分出張支援) 父の日行事食	12月	クリスマス行事食(ラポール菅生、ヒューマンヒルズ初山分出張支援) 年越しそば
7月	七夕そうめん(ラポール菅生、ヒューマンヒルズ初山分出張支援) 土用丑の日(うなぎ)	1月	お節折り詰め(ラポール菅生、ヒューマンヒルズ初山分出張支援)
8月	〈納涼〉屋台風メニュー(ラポール菅生、ヒューマンヒルズ初山分出張支援)	2月	恵方巻き行事食(ラポール菅生、ヒューマンヒルズ初山分出張支援)
9月	敬老会弁当(ラポール菅生、ヒューマンヒルズ初山分出張支援)	3月	ひなまつり行事食(ラポール菅生、ヒューマンヒルズ初山分出張支援)

(3) 今後の課題

ア 安心安全な食事の提供

イ 多職種連携による栄養ケアマネジメントの強化

ウ 在庫管理も含む、食材費の可能な限りの抑制

7 事務

(1) 主な取組み

ア 情報の共有

Teams による各事業所と情報の共有・修理・発注関係等の情報を事務所内で共有し、各事業所がスムーズに運営できるように、各事業所への展開を工夫いたしました。

イ prostaff cloud 導入後

事務職、その他職員ともに操作に慣れてきている状況です。紙ベースだった時にスムーズだった案件がデータベースになることにより時間を要してしまうケースもまだありますが、ICT 化の 1 つとして生産性の向上につながるよう引き続き支援を行います。

ウ 経費の見直し

物品発注や修理時の比較検討を強化して、経費の見直しを行いました。また、川崎市介護サービス事業所等物価高騰対策支援給付金交付申請（第 4 回）を行いました。

エ 職員の定着と採用活動

各事業所・美生会本部・あざみ野本部、各外国人支援団体とのコミュニケーションを図り、職員の採用を行いました。

オ 川崎市介護職員家賃支援事業

川崎市に住所のある介護職員を対象に家賃補助申請を継続して行っています。（月額の二分の一を補助）職員の定着に繋がるきっかけになることを見込んでいます。

(2) 今後の課題

ア 施設内の連携強化

イ 収支・経費の見通しの強化

ウ 職員の定着と人員配置の確認

エ 施設全体への総合的支援への取組み

オ 環境改善と健康保持・促進

カ 地域との連携強化（ラウンジ「つどい」・生活支援コーディネーターの配置・二次避難所等）

(3) 職員状況（令和 7 年 3 月 31 日現在）

ア 職員採用・退職者

	介護	看護	事務・営繕	相談員	ケアマネ	PT	栄養	その他	計
入職者数	7	1	0	0	0	0	4	1	13
異動入職者数	0	1	0	0	0	0	0	0	1
退職者数	7	2	1	0	0	1	2	0	13
異動退職者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0

イ 介護職員資格保有者

	特養	短所入所	看多機	計
介護福祉士	14	9	9	32
実務者研修（ヘルパ－1 級）	3	0	1	4
初任者研修（ヘルパ－2 級）	0	0	0	0
認知症介護基礎研修	4	0	2	6
計	21	9	12	37

ウ 外国人介護人材

技能実習生 2名（インドネシア）

特定技能生 3名（インドネシア2名・フィリピン1名）

8 施設全体の取組み

(1) 委員会活動

委員会名	実施日	内 容
勉強・研修 委員会	偶数月 第2 水曜日	[実施したこと] ・内部研修の担当者の割り振り、計画・企画のサポート（進捗状況の確認） [今後の課題] ・内部研修の参加率のアップ（ビデオ視聴研修を含む。） ・外部研修の計画的な参加の検討（希望者にも配慮）
事故防止 委員会	第2 金曜日	[実施したこと] ・その月の各セクションで発生した事故の検証とその周知 ・事故防止の検討と共に分析を深め、再発防止策を周知徹底し、評価を強化（分析方法の検討も含め） ・インシデントの重視 [今後の課題] ・指針の見直しと周知 ・事故防止の検討と分析、再発防止策の周知徹底・評価の継続 ・眠りスキャン eye の活用
感染予防対策 委員会	第2 金曜日	[実施したこと] ・新型コロナ対策の見直し・再検討 ・新型コロナの防止対策、インフルエンザ、ノロの予防策と罹患した場合の対応策の周知徹底（要物品の常備体制含む。）と、その研修の徹底 ・新型コロナ感染症が発生した場合の段階ごとのシミュレーション ・市内の発症状況を調べ、その情報提供 [今後の課題] ・指針の見直し ・BCP 更新 ・感染予防対策の繰り返しの注意喚起と周知徹底 ・マスク、アルコール消毒液、使い捨て手袋、ガウンテクニック等の感染防御の指導・周知の継続、眠りスキャン等の活用
防災 BCP 委員会	偶数月 第2 水曜日	[実施したこと] ・BCP 概要の理解（ひな形との照らし合わせ） ・防災訓練の企画・運営、防災設備の確認 ・全館停電点検にあわせた停電訓練 ・各ユニット別訓練の実施（訓練参加率のアップ） [今後の課題] ・BCP 更新（具体化、停電時、断水時、日中夜間等の想定訓練） ・各ユニットの防災設備の確認
身体拘束 虐待防止 委員会	奇数月 第2 水曜日	[実施したこと] ・不適切なケアの防止とその意識付けの推進 ・虐待防止のための自己点検表（チェックシート）を作成・実行し、意識と認識の強化 ・各フロアにおいて身体拘束ではないかと思われる事例報告とその検討 ・身体拘束や行動制限を行わないための取り組みの仕方の検討 ・スピーチロックの防止と適切な声の掛け方

		[今後の課題] ・自己点検表（チェックシート）を定期的に行い、意識と認識を継続 ・不適切なケアの防止とその意識付けの継続 ・身体拘束や行動制限を行わないための取り組みの仕方の検討を継続
褥瘡委員会	偶数月 第4 木曜日	[実施したこと] ・褥瘡の状態調査と褥瘡改善方法の検討と実施 ・当たり前の排泄ケア、基本的な排泄ケアを実施していく ・褥瘡はなくせるという理解の強化 ・褥瘡はつくらないという決意で実践 ・褥瘡の要因を多面的に、個々に分析・検討 [今後の課題] ・ポジショニング、栄養管理や排泄支援との連携 ・科学的介護体制による褥瘡マネジメント
栄養委員会	第2 金曜日	[実施したこと] ・行事食の報告・案内 ・食中毒予防の徹底 ・食事提供方法の相談・改善 ・低栄養リスク者の把握 [今後の課題] ・低栄養リスク者に対する対策の検討と取り組み ・科学的介護体制による栄養管理強化
行事委員会	第1及び 第3 火曜日	[実施したこと] ・行事の企画、運営 [今後の課題] ・感染予防を継続しながらの集合行事の検討
広報委員会	随時	[実施したこと] ・ヴィラージュ虹ヶ丘だよりの作成と掲示、HP 随時更新 ・人材確保のための外部へのアピール

（２）内部・外部研修

今年度は、社会福祉協議会会員特典である、オンライン研修を活かして法定研修、および各部署に必要な研修を行っていく。

また、必要に応じた職員へのステップアップのための外部研修などの参加も進めていきます。

（３）各種会議

ア 部門会議

日 時	・第2 金曜日 14時から
機 能	・ヴィラージュ虹ヶ丘の各部門の運営に関して協議・検討し、その方向性や実施の決定
参加者	・施設長、相談員（特養/SS）、特養主任、特養ケアマネ（兼務） 栄養科管理栄養士、看護小規模多機能所長、訪問看護ステーション所長 居宅介護支援事業所所長、事務担当
使用様式	・月次報告シート（共有ファイルの部門会議フォルダーに保管）、月次売上一覧

※部門会議の内容は、施設内の課題の協議だけでなく、美生会の施設長会議の内容・方針も併せて伝達し、職員

への周知徹底

イ リーダー会議

日 時 機 能	・第1 木曜日・第4 金曜日 16 時から ・特養ホーム、短期入所生活介護、看護小規模多機能型居宅介護の各ユニットリーダーが参加して、ユニット間での情報を共有するとともに、各種課題問題等について討議し、その解決策や方針等を決定 ・部門会議の内容を伝え、施設の方針等を周知徹底
------------	---

ウ リーダー・看護師会議

日 時 機 能	・第1 木曜日 16 時から ・特養ホームのリーダーと看護師が参加し、利用者のケアに関する確認事項や業務の共通理解、問題点の抽出やその解決策、方針等を決定
------------	---

エ ユニット会議

日 時 機 能	・各ユニットで月1 回 ・リーダー会議の内容を伝え、施設の方針等を周知徹底 ・各ユニット内の課題を解決するために協議・検討し、解決のための合意形成を行って取組を具体化する場
------------	--

オ 運営推進会議

日 時 機 能	・奇数月第4 土曜日 10 時から ・地域密着型特養ヴィラージュ虹ヶ丘事業所の活動状況を報告し、要望及び助言を聞く機会を設け、地域に開かれた事業運営及びサービスの質の向上の確保を図るもの
参加者	・民生委員、地域住民、地域包括支援センター、利用者家族代表、施設長、特養相談員、ケアマネ、短期入所相談員、看護小規模多機能所長

カ 苦情解決委員会

日 時 機 能 参加者	・申出者の希望に添って開催、年1 回以上開催 ・苦情申出内容に添って検討、対応 ・第三者委員、施設長、事業所別苦情受付担当者、事務
-------------------	---



よろこび久末 事業報告

総括

- 看護小規模多機能型居宅介護
- 訪問看護ステーション
- 事業所共通部門

総括

令和6年度は、看護小規模多機能型居宅介護事業所（以下「看多機」という）において、サテライト事業所を兼務しながら高津区と中原区というエリアで活動をしてまいりました。

利用の相談は年間約150件あり、成約率は32%でした。サテライト事業所ができたことで対応範囲が広がり、受け入れの調整がしやすくなりました。

近隣の事業所と運営推進会議を合同開催し、高津区高齢者支援係の担当者や社会福祉協議会地区担当と年2回の連携会議を通じて情報共有を図りながら、地域課題の把握と資源づくりに努めてまいりました。

また、川崎市からの受託事業である「小地域における生活支援整備体制事業」においては「よろこび市」を月2回、スマホ教室を月1回開催し、地域とのつながりと近隣に暮らす高齢者の「見守り」が構築されてきています。「あんしん暮らしサポート事業」では対象者無しの結果でしたが、行政や地域包括支援センターと相談しながら介護予防の視点で地域とかわりることができました。

職員については、ある程度定着していますがサテライト事業所の開設にあたり採用が課題となり、昨年度に引き続き様々な広告媒体の利用やポスター掲示を行いました。

事業収入としては、居宅支援事業所の閉鎖、PTの退職により訪問看護ステーションの減収が生じ目標収入の達成に至りませんでした。看多機は登録者の獲得を増やす取り組みとしてグループ内の地域連携担当者との定期的なミーティングを実施し、登録利用者の獲得に取り組みを実施しました。

義務化となったBCP対策や高齢者虐待防止については委員会を設置し研修の実施など、それぞれ活動を行いました。

また、物価高騰の影響を低減できるよう事業所全体で残業やコスト削減に取り組みました。人員が少ない中、一人一人ができることを工夫し実践しました。

1 看護小規模多機能型居宅介護

令和6年度の計画の目標に対しての実施状況は、次のとおりでした。

(1) 稼働率

登録者数27名の達成と加算の算定を目標としました。

登録者数は最高で23名で目標達成には至りませんでした。看護体制強化加算1」が継続して算定でき、減収を防ぐことができました。宿泊稼働率は70%という結果でした。

しかし、サテライト事業所の相談も含め、相談問い合わせ件数は昨年度の83件を大きく上回り154件あり、成約率は32%でした。

終末期の受け入れも積極的に行い、医療保険での対象も含めお看取りは4件の実績がありました。最期まで自宅または家族とともにという利用者の思いに寄り添えたのではないかと思います。

収益としては医療保険での訪問看護の算定によって保険収入の増加につながりますが、短期的な利用になることが多く、病状変化の予測を見極めながらできるだけ在宅で、継続して看取りや療養生活を支援できる体制作りを行いました。

安定的な稼働を目指し前年度から取り組んできたグループ内の地域連携担当チームの支援を法人内で継続して行い、月2回のミーティングで多角的に戦略を検討したことで、渉外活動の強化が図られ問い合わせ件数の増加につながったと考えます。また、サテライト事業所があることで利用者の受け入れがしやすくなったこともありこれまで利用の少なかった中原区エリアの利用相談は拡大しましたが、一方で職員が兼務していることや利用者の登録人数が2か所に分散されることで、業務量が増えているが利用者の伸びにつながっていない状況になり、訪問看護ステーションの看護師にも業務支援してもらい拠点全体でカバーする体制を作りました。

ア 令和6年度利用状況

	登録人数	通い平均利用者数	泊り平均利用者数	訪問介護	訪問看護	平均介護度
4月	19 (21)	11.3	5.6	275	20	3.6
5月	17 (21)	9.0	5.3	261	56	3.5
6月	16 (22)	9.1	3.3	255	22	3.2
7月	16 (22)	10.6	2.5	330	23	3.0
8月	19 (21)	11.6	4.4	216	31	2.8
9月	23 (25)	12.2	4.8	230	38	3.4
10月	20 (25)	12.6	4.6	267	74	3.4
11月	18 (27)	9.8	2.8	292	51	3.1
12月	21 (23)	12.1	4.8	252	30	3.3
1月	21 (23)	13.2	6.0	287	50	3.6
2月	20 (18)	14.0	5.0	295	39	3.2
3月	23 (20)	14.6	5.6	341	42	3.1
平均	19.4 (22.5) 人/月	11. (13.4) 人/日	4.6 (5.2) 人/日	275.0 (243.2) 回/月	39. (33.3) 回/月	3.6 (3.2)

※（ ）内は前年度実績、訪問看護はサテライト及び医療保険含む。

イ 令和6年度相談受付状況

	居宅	病院・クリニック	紹介会社	包括・社協	家族・本人	訪看	施設	計
相談件数	57	46	25	6	15	1	4	154
利用件数	17	19	9	4	0	0	1	50

ウ 事故等の報告

事業所で発生した事故等の件数です。発生時には直ちに対応し、安全対策委員会において原因の究明や防止策等の検討をしました。服薬については飲み忘れ、落菓の発見。その他については事務手続きミスに関するものです。転倒が多かった理由としては利用者の心身状況が要因となっており、特定の利用者に繰り返し発生したことで件数が多くなっています。ご家族ともリスクを話し合いながら自立を妨げないよう支援している結果ととらえ、介護職員が疲弊しないように振り返りやカンファレンスを行いました。

インシデント・アクシデント件数

種類 件数	転倒	服薬等	外傷	クレーム	その他	計
件数	23	18	7	4	10	62

エ 行事

毎月の誕生会のほか、歌やゲーム、製作等を行って利用者同士のコミュニケーションの確立や、自主性を促しての役割づくりを行いました。

クリスマス会や敬老会での職員のかくし芸は、利用者と職員が一緒に笑いあい、楽しい時間になりました。

4月	お花見	花や景色を眺めながら外での昼食、おやつ
5月	端午の節句	こいのぼり制作、飾りつけ
7月	七夕	笹に飾り付け、短冊に願い事
8月	夏祭り	事業所内でゲームや屋台風の食事を楽しむ
9月	敬老会	お祝い弁当、職員のかくし芸、ゲーム
10月	ハロウィンイベント	仮装して近隣の子供たちへお菓子配り
12月	クリスマス会	サンタからのプレゼント、ビンゴゲーム、職員のハンドベル演奏
1月	書初め	おせち、七草などの行事食
2月	節分	豆まき
3月	ひな祭り	行事食 豪華7段飾りの雛飾り

(2) 職員状況

人材確保について様々な広告媒体を活用し採用活動に取り組んでいるところですが、専門職の入退職があり都度の補充が迅速にできないこと、またサテライトへの人員配置は兼務で行ったため業務の負担が生じる状況でした。しかしそれぞれが適切に役割を果たしながら、ご利用者へのサービス提供に支障が生じないよう、隙間バイトの人材を活用しスポットで常務を依頼しました。初めて勤務するスタッフにも業務内容や利用者の状態を的確に伝える方法を検討し、安全に安心して業務ができるように取り組むことでリピーターとなっていただき、職場に興味を持ってもらうことにもつながりました。

サービスの質の向上や、職員間のコミュニケーションを図るため、定例でミーティングを行い、また外部研修もオンラインだけでなく、集合研修にも積極的に参加して伝達研修による情報共有を行いました。

た。無資格のドライバーや営繕担当者には「認知症介護基礎研修」を受講してもらい、認知症への理解を深めて対応に当たってもらいました。

入退職状況

職種	介護職	看護職	ケアマネ	事務	その他
入職者数	2	2	1	1	2
退職者数	1	2	0	1	2

(3) サテライト事業所の安定的な運営と人材確保

ヴィラージュ中原の事業報告に含みますが、管理者および職員は兼務となりましたが安定稼働をめざし、渉外活動をおこないながら利用者の受け入れに努めました。今後も人材確保が課題となっています。

(4) BCP にもとづき訓練を実施し、災害や感染症発生時も事業継続できる体制の整備に取り組む

BCP 委員会、感染対策委員会を設置し、毎月委員会を開催しました。年間を通じ発生している新型コロナウイルス感染症の他、インフルエンザやノロウイルスなどについて事業所内研修を実施しマニュアルの確認や見直し等の整備もおこない実践に備えました。BCP 委員会では指針に基づき災害時の職員の安否確認及び出勤状況の確認、避難経路の確認、非常用備品の確認を行いました。ご家族との連携体制や地域との合同訓練など次年度取り組み課題として考えています。

2 小地域における生活支援体制整備事業

令和2年度から、川崎市からの委託を受け、生活支援コーディネーターとして2名を配置し、活動を展開しています。令和6年度は「ライフサポートワーカー（以後LSWという）も受託し介護予防、自立支援の視点で地域住民とのかかわりを行いました。目標としていた月1件の支援対象者はおらず、目標達成には至りませんでした。川崎市全体でみても介護保険サービスの利用につなげることが通常の流れという認識が定着しているためか、ケースは少ない状況であるため課題となっている状況です。

よろこび市」は月2回継続して開催し、その取り組みが川崎市地域包括ケア推進室で評価され、10月に開催された「関東信越厚生局主催・地域包括ケア事例研究会」にて事例発表させていただき、それぞれの自治体の問い合わせや課題を共有できた貴重な機会をいただきました。毎回、開催の問い合わせや古着の寄付も途絶えず、毎回40名程度の来場者に楽しんでもらうことができています。

さらに隣接する市営住宅集会所でのスマホ教室を月1回開催し、日常や災害時に役立つ情報や、ネットワーク作りを行いました。

ボランティアで講師として参加してくれる方を募り、ひさすえ地域包括支援センター等の協力もあり、継続することができています。少人数で開催しましたが、参加者同士でLINEで連絡を取り合うようになり交流ができるようになっていきます。

同エリアの生活支援コーディネーター、高津区地域みまもり支援センター職員や高津区社会福祉協議会との連絡会議も協力年2回開催し、地域課題や取り組み状況の共有化を図ることができました。

3 訪問看護ステーション

(1) 実施状況

令和 6 年度の目標として利用登録者 85 名/月、訪問件数 500 件/月の目標に対し、登録者数は平均 83.4 名で 98%、訪問件数は平均 463 件で 92.6%の達成率となりました。

7 月に併設の居宅介護支援事業所が閉鎖したこと、1 月の理学療法士の退職、また年末以降入院利用者数、施設等移行利用者数が多かったこと等が影響していると思われます。同事業所の看多機との相互間利用は継続しており、泊まり利用含め連携して情報交換しながらスムーズに対応することができました。

(2) 利用状況

ア 月別実績

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
登録人数	80 (80)	82 (78)	89 (77)	81 (84)	84 (84)	86 (83)	89 (85)	88 (85)	88 (86)	80 (87)	78 (87)	81 (80)
新規登録	5	5	10	3	5	7	5	2	3	4	5	5
終了	3	2	11	3	5	2	3	3	7	7	2	6
(看取り)	1	1	3	0	2	0	1	0	2	1	0	0
介護保険 訪問	322 (312)	324 (316)	324 (303)	350 (322)	324 (337)	302 (281)	345 (308)	314 (334)	323 (323)	290 (319)	269 (317)	269 (309)
医療保険 訪問	152 (85)	212 (84)	196 (181)	138 (114)	139 (145)	169 (132)	181 (126)	148 (167)	133 (166)	100 (144)	89 (194)	139 (155)
延べ 訪問数	474 (397)	536 (400)	520 (384)	488 (436)	463 (482)	471 (423)	526 (434)	462 (501)	456 (489)	390 (463)	358 (511)	408 (464)

イ 利用者内訳

新規紹介元 (かつこは前年)		新規居住地		終了理由	
病院	29 (22)	高津区	46	入院	5
居宅	18 (18)	中原区	6	死亡	21
包括	3	宮前区	3	施設	11
他事業所	4	幸区	0	軽快	7
家族・本人	0	港北区	2	事業所変更	2
看多機	0	都筑区	0	看多機移行	0
		多摩区	0	リハビリ終了	3

(3) 職員状況

常勤 4 名・非常勤 2 名・法人所属の常勤 PT1 名 (週 2 日勤務) でしたが退職となり、1 月より非常勤看護師 1 名が常勤となりました。訪問件数が減少した間は看多機の業務支援を行い、夜間のオンコール対応は、常勤 5 名体制となりましたが、1 月より看多機の常勤看護師の退職により月 10 回を訪看スタッフがカバーしています。

月 2 回の法人内の営業戦略ミーティングに参加し、スタッフにも協力してもらいながら渉外活動に取り組み、皆で協力し合いながら訪問件数の増加に努めました。

タブレット端末の活用によって、スタッフ間での利用者情報の共有やカンファレンス、訪問中の事務所との連携をよりスムーズに図ることができています。

BCP 委員会を設置し指針に基づいての委員会開催や研修の実施に取り組みました。

今後も、スタッフの意見を取り入れながら業務改善を行い、働きやすい職場環境作りに努めます。

4 居宅介護支援事業所

(1) 実施状況

平成30年8月に開設し2名で稼働していましたが、法人の運営方針により令和6年7月をもって閉鎖といたしました。

地域的に要支援の方、高齢者のみ世帯も多いため、地域包括支援センターからの介護予防計画の作成依頼や、看多機や訪問看護ステーションが併設していることでの依頼もあり、目標値を上回る稼働となっていました。ケアマネジャーの採用が困難であること、経費や人件費を考慮した結果の判断となりました。担当していた利用者は近隣の居宅支援事業所へ引継ぎを行いました。

事業所閉鎖後、主任ケアマネジャーについては看多機のケアマネとして、これまでのスキルとネットワークを発揮し引き続き地域貢献に尽力しています。

ア 利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	64.0	46.5	6	0	－	－	－	－	－	－	－	－

(要支援1人＝0.5人でカウント、ケアマネ2名分の担当者数)

5 事業所共通部門

事務部門では、各事業の円滑な業務遂行に努めることを目標に、利用者への対応や業務の遅延等を補えるようにしました。

2月に常勤1名の退職があり、非常勤職員の業務分担や法人内での業務分担について検討し、協力を得ることができたことで支障なく業務遂行できました。勤怠管理システムの処理、収支の報告を期日までにおこない、オンライン請求等のシステム導入等による事務作業の増加、経費削減については各部署と検討しながら、物品のコスト削減や在庫管理を行いました。

経年劣化による車両や家電等の故障、破損が生じる時期でもあり、安全に使用できるようメンテナンスやリスク管理をしました。



ヴィラージュ中原 事業報告

総括

- 特別養護老人ホーム
- 短期入所生活介護事業所
- 看護小規模多機能型居宅介護
- 栄養科
- 事務
- 施設全体の取組み

総 括

令和6年度は、前年からのインフルエンザ等の影響も終えて年度前半は順調な稼働率でしたが、年末年始にかけて入院者、退居者が大幅に増加したことが影響し、年度期間中平均で89.7%の稼働率に留まり、事業計画の目標である「満床達成から稼働率97%の維持」の達成は困難となりました。

その要因としては、一旦入院となると長期間の入院となるケースが多くなり、その結果、入所率は維持しているものの、稼働率が低下する傾向があることです。

令和5年10月の開所以降、要介護度の重度化が進んでおり、嘱託医による健康管理を超える専門医療が必要となる場面が増加し、ご入所者が適切な医療を円滑に受けることができる体制整備が喫緊の課題となりました。

そのため、協力医療機関との連携方策に協議を重ねてきており、看取り・突然死への対応については京浜病院を仲介したファストドクターの導入、夜間・休日における円滑な受入れ体制については、協定に基づくたま日吉台病院とのルールづくりに取り組みました。

職員体制は、年度当初から徐々に職員数は充足し、施設長と生活相談員の交代による新たな態勢づくり、業務リーダー4人体制により介護現場の指示系統の明確化を図ることにより、入所者・利用者に安全で安心な介護サービスを提供できる体制に努めました。

収益向上を図るには、高い稼働率の確保とともに、介護保険における加算取得が重要な指標となります。これまでに取り組んだ加算は、日常生活維持支援、夜勤職員配置、生産性向上推進体制、科学的介護推進体制、栄養マネジメント強化であり、ご入所者・ご利用者の理解と協力を得ながら、引き続き加算取得・維持に努めてまいります。

また、ご入所者・ご利用者に安全で快適な居住環境を提供するためには、建物改修費用、維持管理費、修繕費等の経費を適切に賄う必要があるとの判断から、令和6年8月に居住費の改定を行いました。

当施設の特養部分は全てが多床室であり入所調整が困難となるケースがみられるため、行政の全額補助によるプライバシー確保の個室化事業を行うことにより、男女に関わらず入居調整が円滑に対応できることになりました。

また、施設は竣工以来30年を経過しており、令和4年度・5年度に大規模改修を行ったところですが、夏場に空調設備が故障し、ご入所者・ご利用者に迷惑をかける事態が発生したため、年度後半から専門業者による調査と提案を受けて、緊急対応が必要な施設・設備の適正なメンテナンスに取り組んでおります。

第9回SMG学会発表では、「慢性疾患を抱える入居者に係る特養と医療機関との連携方策」をテーマに発表を行うとともに、神奈川県から喀痰吸引事業者登録を受けるなど、一定の医療行為が必要となっても可能な限り施設でケアができる体制づくりに取り組みました。

対外的な情報発信ツールとして、9月に独自のホームページ開設を行い、施設概要、職員募集、料金表、重要事項説明書、面会基準等の掲載とともに随時の更新を行うことにより、施設の認知度は高まりました。

よろこび久末のサテライトであるヴィラージュ中原看護小規模多機能型居宅介護は、法人本部とよろこび久末による営業チームを編成し、介護保険事業所への営業活動とともに、地域密着型広報の強化に努め、年度後半から稼働率が向上し、収益確保の主要な位置付けを確保できることとなりました。

生活支援体制整備事業では、生活支援コーディネーターを3名配置し、地域資源の開拓、ケースの発掘・支援に努めるとともに、6月からスタートした駄菓子屋事業では延べ1,800人の来場があり、子どもたち、地域の方々、ご入所者・ご利用者が集う場として定着しました。

今後とも、加算取得、入所空室期間の短縮、ショートのお空床利用、光熱水費の縮減、高い稼働率による人件費比率の低減など、多面的な取り組みを行うことにより、安定し持続的な施設運営ができるよう努めてまいります。

1 特別養護老人ホームヴィラージュ中原

(1) 稼働率

特別養護老人ホーム（以下「特養」という。）の稼働率は、平均で89.7%と低迷しました。令和6年12月から令和7年3月にかけて入院者数、退居者数が大幅に増加したことが要因です。今後は長期入院を減らすためにご家族や協力医療機関との連絡調整を定期的に行い、長期入院による退居の防止と、積極的な看取り対応にて入院による空床日数の減少を図っていきます。また、空床が生じた場合に速やかに入居が進められるよう取り組んでまいります。

従来型（定員52名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平均入居者数	46.6	48.2	50.1	48.6	48.0	47.8	49.6	48.3	44.3	40.1	42.0	46.2	46.7
稼働（%）	89.6	92.6	96.2	93.4	92.3	91.9	95.3	92.9	85.2	77.0	80.7	88.8	89.7

(2) 主な取組み

- ア 無資格・未経験者の積極的な採用（2名）
- イ 介護リーダーの配置
- ウ ご入居者の生活実態に合わせた職員勤務体制の拡充
8夜勤2名体制による、看護多機能への応援体制の確立
- エ 看取り介護
- オ 委員会活動の充実化
- カ 介護技術の向上はじめとする職員研修
- キ 喀痰吸引等（特定業務）資格取得の推進
- ク ご入所者の誕生日会の開催
- ケ 担当者会議の開催、課題総括表の作成
- コ 新規入所者の入所前事前調査、意向確認の実施
- サ LINEによるご家族との軽微な日常生活の報告、意向の確認
- シ 隔月の感染予防委員会を開催しマニュアルを作成

(3) 今後の課題

- ア 部署を超えた協力体制づくり、情報共有及び業務の見直し
- イ 稼働率を念願においたご入居者への健康管理と、入院を防ぐ取組み
- ウ 他施設と協力したBCPの維持・更新
- エ 所属長による職員行動の把握と評価
業務リーダー増に対応した評価方法の教育
- オ 感染予防対策におけるマニュアルの運用・衛生環境の整備
- カ 職員の接遇やケア意識の向上
利用者本位の介護の提供及び人材の育成
- キ 喀痰吸引資格保持者の夜間配置
- ク LINEを利用したサービス担当者会議へのご家族の参加
- ケ ご入居者の個別性を重視した、ケアの提供
- コ 感染対策の周知徹底

(4) 医療的状況

ア 入院等の状況

ご入居者の基礎疾患悪化や重症化に伴う長期入院となりやすい傾向がありました。

受診においては往診医との連携・定期診察や早期発見を行うことにより、症状の回復につながったと考えております。

これからも早期対応を図るべく、協力医療機関・往診医との連携のもと健康管理に努めていきます。

従来型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院・外泊延べ日数	27	104	58	106	81	71	75	90	203	300	164	82	1,361

イ 受診状況

全体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
受診数	7	3	7	5	1	8	7	14	7	6	2	5	72

※ 協力医療機関以外の他医療機関の受診は、整形外科、眼科、精神科、ストマ外来、脳神経外科等

※ 主な入院の要因は、発熱、肺炎（誤嚥性含む）、尿路感染等

ウ 看取り状況

全体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
看取り数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	3

(5) 施設入居者の状況

ア 区別入居者数（令和7年3月31日現在）

	計
中原区	29
幸区	5
高津区	7
多摩区	4
宮前区	4
川崎市以外の市区町村	1
計	50

イ 入退居の状況

従来型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居	5	2	0	0	0	4	0	0	1	2	3	4	21
退居	0	0	0	0	3	1	0	1	2	3	5	2	17

ウ 要介護度別入居者数

従来型（令和7年3月31日現在）

区 分	要介護度 1	要介護度 2	要介護度 3	要介護度 4	要介護度 5	計	平均介護度
男	0	2	7	5	4	18	3.6
女	1	1	8	15	7	32	3.8
計	1	3	15	20	11	50	3.7

エ 年齢別分布

従来型（令和7年3月31日現在）

年 齢	男	女
65 未満	0	0
65～69	0	2
70～74	1	1
75～79	3	4
80～84	2	3
85～89	7	8
90～	5	14
合 計	18	32
平均年齢	85.2	87.5

（6）ボランティアの受入れ状況

令和6年度は、駄菓子屋事業を展開する中で、3名のボランティアを受け入れて、駄菓子の仕分け、会計、子どもたちの対応などの手伝いをお願いしました。

（7）施設行事（特養・ショート）

開設以来1年が経過し、ご入所者・ご利用者に喜ばれる施設行事を行うことができました。

	施 設 行 事		施 設 行 事
4 月	—	10 月	多摩川花火鑑賞
5 月	—	11 月	運動会—
6 月	あじさいドライブ	12 月	保育園児交流クリスマス会
7 月		1 月	初詣
8 月		2 月	誕生日会—
9 月	敬老お祝い会（カラオケ大会）	3 月	お花見

2 ヴィラージュ中原短期入所生活介護事業所

(1) 行動指針

地域のご利用者・ご家族やケアマネジャーの要望に応じた緊急時の受け入れ対応や、新規の受け入れ対応、地域の皆様が住み慣れた場所で安心して在宅生活を継続できるよう支援していきます。

ア 延べ利用人数と稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	2	2	0	5	22	0	4	23	6	0	0	6	70
女性	22	23	41	34	13	43	38	18	23	0	11	27	293
計	24	25	41	39	35	43	42	41	29	0	11	33	363
稼働率	40%	40.3%	68.3%	62.9%	56.4%	71.6%	67.7%	68.3%	46.7%	0%	19.6%	53.2%	49.7%

イ 要介護状態区分別利用延べ人数

	要支援1	要支援2	計
男性	0	0	0
女性	6	2	8
計	6	2	8

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男性	17	0	39	6	8	70
女性	113	44	100	19	9	285
計	130	44	139	25	17	355

(2) 主な取組み

- ア ご利用者、ご家族の要望に沿った受け入れ期間の設定や個別ケアの立案
- イ 特養の空床利用
- ウ 居宅介護支援事業所への空床状況のお知らせ

(3) 今後の課題

- ア 短期入所床システムを利用した緊急時の受け入れ対応
- イ 感染防止対策の継続
- ウ 要支援の方が来ても退屈しないショートステイづくり
- エ 働きやすい職場環境づくり

3 看護小規模多機能型居宅介護

令和6年度の実績は次のとおりでした。

(1) 利用状況

令和5年10月の開設から半年後の令和6年度4月には5名、年度末には15名まで増えました。

平均登録者数は10.9人で宿泊利用者も増えています。

本体事業所であるよろこび久末とはエリアを分けて近隣の方を受け入れることで徐々に利用者を増やすことにつながりました。開設時から運営推進会議や生活支援コーディネーターの活動で周知を図ったことも影響が大きかったと考えます。上半期は夜勤職員の配置が毎日できなかったため稼働率を上げることができませんでした。下半期は人員体制を整え、連日稼働することができました。

サテライトのメリットを生かし、本体事業所と双方で調整したことにより難しさもありましたが、登録利用者数を増やすことができました。

ア 令和6年度利用状況

	登録人数	平均通い人数	平均泊り人数	訪問介護件数	平均介護度
4月	5	2.9	0.5	69	3.8
5月	6	3.7	0.7	107	4.1
6月	7	3.7	0.4	119	3.6
7月	10	5.4	0.5	136	2.8
8月	10	5.8	0.6	114	2.7
9月	10	6.7	0.7	115	2.9
10月	13	9.2	2.5	163	2.9
11月	14	9.2	2.5	154	2.6
12月	13	8.0	2.6	119	2.8
1月	14	8.1	2.8	99	2.7
2月	14	7.4	2.1	69	2.8
3月	15	8.1	3.0	83	2.7
平均	10.9人/月	5.7人/日	1.6人/日	112件/月	3.0

(2) 職員状況

職員の確保は派遣3名（日勤1名、夜勤2名）採用し、日勤は看護師を含めた体制で本体との兼務、送迎や入浴介助等の業務対応は隙間バイトを利用して補充しました。運転できる介護職員の採用が難しく、利用者が少ないとは言え送迎対応のスケジュール調整にとっても苦労しました。

ア 入退職状況

職種	介護職	看護職	事務	ドライバー
入職者数	1	1	0	1
退職者数	1	1	0	0

(3) 事故等の報告

職員の言動による苦情が1件あり、川崎市より電話による指導がありました。

包括支援センターの介入支援も受け話し合いを持ちましたが、別の事業所を利用するという結果になりました。利用者やご家族へ配慮し信頼関係の構築を図れるよう情報共有しリスク管理に努めました。

分類	転倒、 外傷	薬剤関係	クレーム	合計
件数	4	1	1	6

(4) 行 事

季節を感じられる行事に参加していただきました。

駄菓子屋事業開催時にはお菓子を買いに行き、栄養士さんが作る行事食も楽しんでいただきました。

年間	季節の制作、飾りつけ
4 月	お花見散歩
7 月	夏祭り
9 月	敬老会
10 月	ハロウィンイベント
12 月	クリスマス会
1 月	書初め
2 月	節分
3 月	ひな祭り

(5) 小地域における生活支援体制整備事業

隔月定例開催の運営推進会議において事業の課題等について指摘・提案をいただき、また、生活支援コーディネーターの3名配置により、地域資源の新たな開拓、ケースの発掘・支援に繋げることができました。駄菓子屋事業は、子ども達のほかご入所者・ご利用者も利用されて生き甲斐に繋がり、ボランティアの参加もあり、この取組は地域から好評価を得られました。

民生委員児童委員との食事会、保育園等とご入所者・ご利用者との世代間交流、ハロウィンなど施設利用団体との共同企画、ケースに係る地域包括支援センターとの連携など、運営推進会議委員の支援・協力により、地域密着型のサービス展開に活かすことができました。

4 栄養科

(1) 主な取り組み

ア ニュークックチルシステムでの円滑な運営

(ア) 衛生管理に努め、安全・安心な食事提供の継続ができました。

(イ) 日々のPDCAサイクルの実施により精度が高められました。

イ 省人化による適正人数での運営

(ア) ニュークックチルシステムや調理済み食材の導入により職員配置の比率を下げ、少人数で運営することができ、施設収支の健全化に貢献することができました。

(イ) 少ない人数であっても、職員の負担が大きくなるよう献立内容を精査しました。

ウ グループ施設への応援

(ア) 月1回程度のよろこび久末やヒューマンヒルズ初山への行事食支援により満足度の向上に寄与しました。

(2) 行事食の提供

ア 旬の食材を取り入れ、四季折々の行事食の提供

イ 行事食におけるデイパフォーマンスでの、献立の説明や食材の豆知識の提供（他施設も提供）

	行事食		行事食
4月	穴子飯（よろこび久末）	10月	イタリアン、パフェ（よろこび久末）
5月	新緑御膳（よろこび久末）	11月	握り寿司 （よろこび久末）
6月	フレンチ（よろこび久末）	12月	クリスマス行事食（よろこび久末） 年越しそば
7月	そうめん（よろこび久末）、土用の丑の日	1月	お節折り詰め （よろこび久末、ヒューマンヒルズ初山）
8月	中華（よろこび久末）	2月	恵方巻き行事食
9月	敬老の祝い（よろこび久末）	3月	ひなまつり行事食 （よろこび久末、ヒューマンヒルズ初山）

(3) 今後の課題

ア 安心安全な食事の提供

イ チーム協働による栄養ケアマネジメントの強化

ウ 在庫管理も含む、食材費の可能な限りの抑制

エ 人員の充足

5 事務

(1) 主な取組み

ア 職員への取り組み

中途入職者や特定技能生には、オリエンテーションを案内し、全職員に向けて接遇研修を実施しました。
また、火災予防の避難訓練を実施し、防災意識を高めました。特定技能生も積極的に受け入れをし、入職前準備、入職後のフォローを行いました。

イ 地域交流室の活用

地域の公益的取組みへの一環として、地域交流室を活用し、近隣老人クラブの麻雀や手芸教室など、近隣住民の方の交流の場としました。

ウ 法人の仕組みの浸透

施設としてどのような仕組みで動いているのか、業務の流れや制度(ProSTAFFCloud 等)を異動入職等ではない新規の職員に浸透させ、運営に支障が出ないように努めました。

(2) 今後の課題

ア 別部署への情報発信・共有の強化

イ 大規模改修箇所を除いた、老朽化している施設・設備の適正なメンテナンス

(3) 職員採用・退職者（令和7年3月31日現在）

	介護	看護	事務・営繕	相談員	介護支援専門員	栄養	その他	計
入職者数	26	4	6	0	1	10	2	49
異動入職者数	1	0	0	1	0	0	0	2
退職者数	9	1	1	1	0	3	0	15
異動退職者数	2	0	0	0	0	0	0	2

(4) 介護職員資格保有者（令和7年3月31日現在）

	従来型（SS）	看護小規模多機能型居宅介護	計
介護福祉士	14	0	14
実務者研修（ヘルパー1級）	3	0	3
初任者研修（ヘルパー2級）	4	0	4
計	21	0	21

6 施設全体の取組み

(1) 委員会活動

委員会名	実施日	内 容
事故防止委員会	月末水曜日	・ 事故、ヒヤリハットの集計及び振返り ・ 重大事故の検証 ・ 事故事例の検討及び分析、対策とその評価 ・ 事故報告書の作成方法及びカンファレンス方法の見直し ・ 職員への指導及び教育方法の見直し等 ・ 研修の開催 ・ 緊急時のフローチャートの作成
感染予防対策委員会	隔月第1金曜日	・ 感染症予防策と発生時の対処方法の周知徹底 ・ 感染対策時の必要物品の確認 ・ 市内及び全国の感染症全般の発症状況を調べ、その情報提供 ・ 感染症が集団発生した場合の対応策の見直し ・ 夜間発生時の対応、食器の処理方法の確認等 ・ 食中毒予防に関する情報の共有等
人権擁護・高齢者虐待防止委員会	3月6月12月2月 月末水曜日	・ 不適切なケアの防止とその意識付けの推進 ・ スピーチロックの防止と適切な声の掛け方 ・ 研修の開催 ・ 不適切な介護についてのアンケートの開催
防災委員会	不定期	・ 地震、火災等に備えるための定期的な防災訓練の企画 ・ 年2回の火災を想定した訓練 ・ 防災機器の使用方法を確認 ・ 夜間の火災発生時のフローチャートの作成
身体拘束適正化委員会	3月6月12月2月 月末水曜日	・ 各フロアにおいて身体拘束と思われる事例報告とその検討 ・ 身体拘束や行動制限を行わないための取り組みの仕方の検討 ・ 研修の実施
苦情処理委員会	適宜の開催	・ 施設で受け付けた苦情および相談の報告、その対策の検討 ・ 問題を解決し、事業並びにサービスの質の維持、向上を図る ・ 第三者委員から助言を受ける

(2) 内部研修

実施月	内 容	講 師
4月	接遇研修	岩田優子
5月	看取りの研修	藤原直子
6月	食中毒／BCP（非常災害時の対応）	高澤晋平／福芝康祐
7月	事故防止／身体拘束廃止／虐待防止	伊藤武史／坂本広宣／大西共子
8月	ハラスメント対策	福芝康祐／伊藤武史
9月	感染症講義編	藤原直子
10月	感染症実技編	藤原直子
11月	認知症の理解	一ノ瀬暁
12月	介護倫理・個人情報保護	一ノ瀬暁
1月	事故防止／身体拘束廃止／虐待防止	伊藤武史／坂本広宣／大西共子

2月	褥瘡ケア	金島裕子／木村絵里子
3月	介護後術	伊藤武史
3月	喀痰吸引実地研修	金島裕子／藤原直子 受講生→魏・本田・山本・アスワル ウィンディ・オオン

(3) 外部研修

	研修内容	参加者
4月	中途入職者オリエンテーション	オオン・福芝
7月	中途入職者オリエンテーション	祝
8月	中途入職者オリエンテーション	三角・孫
8月	介護実務者研修	アスワル・オオン
11月	中途入職者オリエンテーション	ウィンディ
12月	介護支援専門員更新研修	大西
1月	中途入職者オリエンテーション	神邊
	介護技術の応用	三角
2月	中途入職者オリエンテーション	小松
2月	緊急時対応の手法と手順	オオン・アスワル・デタ・ウィンディ
3月	介護支援専門員更新研修	一ノ瀬

(4) 各種会議

部門会議	・第1、第3金曜日15時から ・各部門から実績及び予定、課題の報告、施設全体の連絡、課題の検討ほか施設の運営全般に関する会議 ・施設長以下各部門長が出席
担当者会議	・介護、医務、栄養、ケアマネジャーが参加し、ご入居者の状態の確認等を行い、課題を検討
フロア会議	2階、3階各フロア別に必要事項、課題等を確認、協議
主任会議	全体において課題となることを協議